

アレンジ・作曲学科

2年次生

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	音楽理論 III
担当講師名	隼田義博
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽出版社の作曲家として、TV やトレーラーをはじめとした各種マルチメディア用音楽制作の実務経験を持ちます。

授業内容

前半は 1 年次に学習したダイアトニック・コードとノンダイアトニック・コードの総括的復習をおこない、後半はコード進行のさらなる応用力をつけるべく機能的なりハーモニゼーションの方法について学習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基本的なダイアトニック／ノンダイアトニック・コードおよびスケールに関する理解と、既存曲そして自作曲をメロディそしてコード進行の視点から正しく分析できることを目標とします。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①調・音階・和音の基本的な理解度を確認します。
- ②メジャーキーのダイアトニックコードの仕組み、用例、コードスケールを確認します。
- ③マイナーキーのダイアトニックコードの仕組み、用例、コードスケールを確認します。
- ④セカンダリドミナントの仕組み、用例、コードスケールを確認します。
- ⑤Dim 7 th の仕組み、用例、コードスケールを確認します。
- ⑥モーダルインターチェンジによる借用和音の仕組み、用例、コードスケールを確認します。
- ⑦中間試験：既存曲の分析を試験としておこないます。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験を行います。学習したコード、スケール、用法等に関する理解度を評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8 回目から 15 回目）

- ⑧ トライトーン SubV7 の仕組み、用例、コードスケールを確認します。
- ⑨ リハモニゼーション① ダイアトニックコードの代理機能を使って考察します。
- ⑩ リハモニゼーション② ドミナントコードを使って考察します。
- ⑪ リハモニゼーション③ Dim7 を使って考察します。
- ⑫ リハモニゼーション④ モーダルインターチェンジによる借用和音を使って考察します。
- ⑬ リハモニゼーション⑤ 調に対して非機能的なコードの使用について考察します。
- ⑭ 転調の様々なパターンと効果的な用例を確認します。
- ⑮ 期末試験：既存曲の分析を試験としておこないます。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験を行います。学習したコード、スケール、用法等に関する理解度を評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

筆記用具と五線譜を毎回必ず持参、また、配布資料はかならずファイルにまとめ、毎回持参してください。

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	音楽理論 IV
担当講師名	隼田義博
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽出版社の作曲家として、TV やトレーラーをはじめとした各種マルチメディア用音楽制作の実務経験を持ちます。

授業内容

前半は、教会旋法をはじめとする旋法の考え方と響きの演出の仕方について学習し、後半は、様々な既存曲の分析を通して、学習したすべての内容を総合的に復習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

トータルハーモニー、モーダルハーモニーそれぞれの仕組みと音楽の響きを柔軟にとらえ、正しく理解し表現できることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①旋法の考え方、旋法と調性の歴史、教会旋法の音階構造を確認します。
- ②個々の教会旋法の響きの特徴を確認します。
- ③旋法を用いた表現① 旋法の響きを演出する旋律について考察します。
- ④旋法を用いた表現② 旋法の響きを演出するコード進行について考察します。
- ⑤旋法を用いた表現③ 旋法の響きを演出する旋法和音について考察します。
- ⑥ほか日本をはじめ諸外国で見られる旋法の音階構造、用例を確認します。
- ⑦中間試験：旋法の音階構造の確認、既存曲の分析を試験としておこないます。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験を行います。学習したコード、スケール、用法等に関する理解度を評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧スティービー・ワンダーのハーモニー① II-V、バックドア II-V の用例を考察します。
- ⑨スティービー・ワンダーのハーモニー② SubV7 の用例を考察します。

- ⑩ スティービー・ワンダーのハーモニー③ モーダルインターチェンジによる借用和音の用例を考察します。
- ⑪ バート・バカラックのハーモニー① メロディの効果的な演出を考察します。
- ⑫ バート・バカラックのハーモニー② 転調、非機能的なコード進行の用例を考察します。
- ⑬ パット・メセニーのハーモニー① 転調、非機能的なコード進行の用例を考察します。
- ⑭ パット・メセニーのハーモニー② 旋法の用例を考察します。
- ⑮ 期末試験：授業で取り上げた曲の分析を試験としておこないます。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験を行います。学習したコード、スケール、用法等に関する理解度を評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

筆記用具と五線譜を毎回必ず持参、また、配布資料はかならずファイルにまとめ、毎回持参してください。

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	DTM・DAWⅢ
担当講師名	高木則幸
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は DTM,DAW を用いた楽曲制作の実務経験があります。

授業内容

この科目ではサードパーティー製プラグイン「Native Instruments KOMplete10」のより高機能なシンセサイザーやリズム音源の使用法を学び、各デバイスを使いこなした小作品を制作します。2クォーターは1クォーターで学んだシンセサイザーやリズム音源の特徴を生かして、現代の音楽制作には欠かせない要素である、本格的なダンス、クラブミュージックの制作を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

サードパーティー製プラグイン「Native Instruments Massive」を使ったオリジナルの音作りと、「Komplete」収録の各音源を使いこなした作品作りが出来るようになります。クラブミュージックのジャンルや特徴と曲作りの方法を習得し、楽曲を制作し完成します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Massive 及び、KOMplete10 各機能の紹介、基本操作解説。
- ②オシレーター、フィルター、エンベロープ、シンセサイザーの基本的構造を学びます。
- ③モジュレーションマトリクス、アルペジエーター、オートメーション等の本格的な音作りを学びます。
- ④Komplete のその他のデバイスについて、使用方法と効果的な使い方について学びます。
- ⑤オリジナル音色の作成とそれを使った作品制作を行います。
- ⑥Komplete 各デバイスとオリジナル音色を組み合わせて作品を完成、提出します。
- ⑦提出作品の発表と評価を行います。

中間試験評価方法・評価基準

1分以上の、シンセサイザーを効果的に使用したオリジナル作品を提出します。
出席 60%、作品 40%、作品の評価方法はシンセサイザーの使いこなし方及びオリジナリティーやクオリティーを総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧クラブミュージックの歴史、ジャンル、スタイル等について解説します。
- ⑨クラブミュージックの最も代表的なジャンルである House について、ビートの特徴や作り方を学びます。
- ⑩Techno について、House との違い、グループの特徴や作り方を学びます。
- ⑪Drum' n Bass、DubStep などのブレイクビーツ、BassMusic の特徴とビートの作り方を学びます。
- ⑫曲構成上、必須となるブレイクダウンとビルドアップについて、効果的なアレンジ手法を学びます。
- ⑬曲構成の作り方、オートメーションを使ったアレンジについて学び、楽曲を制作します。
- ⑭楽曲を完成、提出します。
- ⑮提出作品の発表と評価を行います。

期末試験評価方法・評価基準

3分以上のクラブミュージック、ジャンルの特徴を遵守したオリジナル作品を提出します。
出席 60%、作品 40%、作品の評価方法はクラブミュージックとしてのジャンルの追従度、オリジナリティーやクオリティーを総合的に評価します。

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	DTM・DAWIV
担当講師名	高木則幸
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は DTM,DAW を用いた楽曲制作の実務経験があります。

授業内容

この科目では DAW 環境による音楽制作をより深く理解する為、収集した生音サンプルを元に **Electronica** 作品を制作。波形編集やサンプラーを用いたサウンドメイキングを学びます。4クォーターはこれまで学習した **Cubase, Komplete** 等様々な機能を用いて総合的な楽曲制作とミキシング、マスタリングの基本を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

オーディオサンプリングとサンプラを使いこなし、本格的なエレクトロニカ作品を制作、完成させます。リミックスの手法を用いて総合的な DAW 環境における作品制作と、ミキシングマスタリングまで含めた商品レベルの作品を完成させます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Electronica とは、電子音楽とは何か、またジャンルとしてのエレクトロニカについて解説します。
- ②IC レコーダーやビデオカメラを使って身の回りの生音を収集します。
- ③波形編集機能を使って収集したサンプルを編集します。
- ④サンプラーのパッチをオリジナルの素材で制作します。
- ⑤エフェクトを使った音作りとアレンジについて学びます。
- ⑥楽曲を制作、仕上げ、提出します。
- ⑦提出作品の発表と評価を行います。

中間試験評価方法・評価基準

3分以上の、オリジナル作品を提出します。

出席 60%、作品 40%、作品の評価方法は、既存のジャンルにとらわれないクリエイティビティを重視し、かつオリジナリティーやクオリティーを総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧現代のリミックスについての解説と企画書作成。
- ⑨POP系歌モノからのリミックスについて学びます。
- ⑩インスト曲からのリミックスについて学びます。
- ⑪3拍子系から4拍子系へのリミックスについて学びます。
- ⑫ミキシングについて学びます。
- ⑬マスタリングについて学びます。
- ⑭楽曲制作。ミックスダウン、マスタリングを行い、作品を提出します。
- ⑮提出作品の発表と評価を行います。

期末試験評価方法・評価基準

自身の楽曲からのリミックス作品を制作します。3分以上。

出席 60%、作品 40%、作品の評価方法は楽曲のオーディオ的完成度と、オリジナリティーやクオリティーを総合的に評価します。

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	ミックステクニック
担当講師名	遠藤淳也
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

安室奈美恵、Awesome City Club、九州男、Crystal Kay、CHEMISTRY、郷ひろみ、SOUL' d OUT、DefTech、西野カナ、ポルノグラフィティ、BoA、ミオヤマザキ、ReoNa 等の Recording&Mixing を手掛ける等の実務経験がある。

授業内容

ミックスの基礎概論と音響学の基礎を学び効率的で効果的な作業を習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

作品の制作意図が、正しく聴き手に伝わるように、音楽的、理論的に正しいテクニックを学び、高品質で精度の高いミックスを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①音響学の基礎（1）音量と音域による聴感上の違いを学びます。
- ②音響学の基礎（2）倍音の違いによる音の変化を確認します。
- ③音響学の基礎（3）音の定位と位相を数学的に解析します。
- ④イコライザーとコンプレッサーの概念と適切な使用法（1）ドラムスとパーカッションを、ジャンル別に適したサウンド作りを学びます。
- ⑤イコライザーとコンプレッサーの適切な使用方法（2）ベース、ギター、ピアノ、シンセ等のリズム、メロディ、コードを構成する楽器の基本的なサウンド作りを学びます。
- ⑥イコライザーとコンプレッサーの適切な使用方法（3）曲の最重要な部分であるヴォーカルのサウンド調整方法を男性、女性別に学びます。
- ⑦クォーター末試験 課題をミックスしデータ提出します。

中間試験評価方法・評価基準

ミックスの基礎を把握しているか、技術的な進歩はあるかを評価します。
実技試験 40 点、出席点 40 点、平常点 20 点。

授業計画（8 回目から 15 回目）

- ⑧リヴァーブとディレイの概念と種類
- ⑨リヴァーブとディレイの理論と種類別特性
- ⑩音楽ジャンル別に適したリヴァーブとディレイの種類別特性を理解し、適切な使用方法を学びます。
- ⑪楽器別に適したリヴァーブとディレイの種類別特性を理解し、適切な使用方法を学びます。
- ⑫特殊エフェクトの製作法と使用例
- ⑬ミックスに必要な楽器、歌等の音量調整をオートメーションで行う方法を、基本から学びます。
- ⑭音作りに必要なプラグインの種類を理解し、オートメーションの使用方法を学び、ミックスの精度の向上を学びます。
- ⑮クォーター末試験 各自のオリジナル曲のミックスデータを提出します。

期末試験評価方法・評価基準

高音色で音楽的なミックスが出来ているかを評価します。
実技試験 40 点、出席点 40 点、平常点 20 点。

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	プリプロダクションテクニック
担当講師名	遠藤淳也
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

安室奈美恵、Awesome City Club、九州男、Crystal Kay、CHEMISTRY、郷ひろみ、SOUL'd OUT、DefTech、西野カナ、ポルノグラフィティ、BoA、ミオヤマザキ、ReoNa 等の Recording&Mixing を手掛ける等の実務経験がある。

授業内容

前学期のミキシングテクニックで学んだ音響理論、専門的な技術を使い、高品質、高音質なデモテープ作りを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

目的別（コンペティション、オーディション）、ジャンル別（歌物、劇伴等）に適合した、プロクオリティのデモテープ及び完成品が高品質で作れるようにします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①公募用、自作用などの使用目的に合わせたデモテープの製作法を学びます。
- ②提出時の条件、提出規則についての確認を理解し、対処方法を学びます。
- ③リファレンスの概念と選び方（1）デモテープ制作の参考資料の解析と、参考楽曲の選出の仕方を効率的に行う方法を学びます。
- ④リファレンスの概念と選び方（2）楽曲制作における、リファレンス曲の構造とミックスの構築の解析を行える、機材とプラグインの使用方法を学びます。
- ⑤プリプロダクション用ミックス
- ⑥プリプロダクション用マスタリング
- ⑦クォーター末試験 自作の楽曲の完成形をテーマに沿って、データ提出します。

中間試験評価方法・評価基準

テーマに沿って、オリジナル曲が制作されているかについて確認、評価します。
実技試験 40 点、出席点 40 点、平常点 20 点。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ミックス（1）作品をプログレードに近づける為、更に高度な理論、技術を自作を使って学びます。
- ⑨ミックス（2）ジャンル別に著名なミックスを解析して学びます。
- ⑩ミックス（3）最新ヒット曲（邦楽、洋楽）のミックスを解析して学びます。
- ⑪マスタリング（1）最新音楽状況にあったマスタリング技術とプロデュース方法を詳しく学びます。
- ⑫マスタリング（2）自作のマスタリングに関して不明な点、もっと知りたい点を質疑応答します。
- ⑬ミックス総括 最新のミックス技術、最新機材の解説と今後の流行、展望を学びます。
- ⑭マスタリング総括 最新のマスタリング技術、機材の解説と今後のメディアの変化、展望を学びます。
- ⑮クオーター末試験 オリジナル曲をデータで提出します。

期末試験評価方法・評価基準

これまでに学んだ理論、技術が身に付いているかについて確認、評価します。
実技試験 40 点、出席点 40 点、平常点 20 点。

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	ポピュラーアレンジⅢ
担当講師名	水島康貴
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はアイドルグループからアニメや映画など様々な楽曲の作曲・アレンジ・プロデュースを担当した実務経験があります。

授業内容

アレンジの基礎からメロディー、曲の構築などリファレンスなど各自の目標を定め、オリジナリティーも追求しつつ、メロディーに対してバランスの良いオケの制作を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

メロディーに対するコードとリズムの関わり合いを理解し、基本のビートに対して楽器ごと、帯域、定位によるバランスの取り方の基本を理解し、実践することが出来るようになることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①「アレンジガイダンスと課題提示」授業内容の説明、共有フォルダの設定。8beat アレンジ課題の提示と8beatの基本とリファレンスについて。
- ②「8beat 曲のアレンジ1」メロディ課題から目標とするリファレンスの解析と、8beat 課題を組んだ4リズムを発表し、楽器構成のポイントなどを全員で検証します。
- ③「8beat 曲のアレンジ2」4リズムから発展させたアレンジを発表し、修正他全体アレンジバリエーションの指導を行います。
- ④「8beat 曲のアレンジ3」8beat 課題の提出。各自の目標に到達しているかを検証します。16beat 課題の提示と基本について。
- ⑤「16beat のアレンジ1」メロディ課題から目標とするリファレンスの解析と、16beat 課題の組んだ4リズムを発表し、楽器構成のポイントなどを全員で検証します。
- ⑥「16beat のアレンジ2」4リズムから発展させたアレンジを発表し、修正他全体アレンジバリエーションの指導を行います。
- ⑦「16beat のアレンジ3」16beat 課題の提出。各自の目標に到達しているか検証。16beat 課題の提示と基本について。

中間試験評価方法・評価基準

出席 30% 平常点 30% 課題提出 40%(メロディ課題の1ハーフ音源を提出)

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ 「3連, Bounce 曲のアレンジ1」メロディ課題提示、3連, Bounce の4リズムの組み方を説明します。ハネ方の数値など聞き比べしながら体感します。
- ⑨ 「3連, Bounce 曲のアレンジ2」メロディ課題から目標とするリファレンスの解析と、Bounce 課題の組んだ4リズムを発表し、楽器構成のポイントなどを全員で検証します。
- ⑩ 「3連, Bounce 曲のアレンジ3」4リズムから発展させたアレンジを発表し、修正他全体アレンジバリエーションの指導を行います。
- ⑪ 「マスターリズムの作成について」マスターリズムの基本と必要な情報について。実際の五線紙も使用しながら覚えていきます。
- ⑫ 「4つ打ち楽曲のアレンジ1」メロディ課題提示、4つ打ち楽曲の4リズムの組み方を説明します。ハネ方の数値など聞き比べしながら体感します。
- ⑬ 「4つ打ち楽曲のアレンジ2」メロディ課題から目標とするリファレンスの解析と、4つ打ち楽曲の組んだ4リズムを発表し、楽器構成のポイントなどを全員で検証します。
- ⑭ 「4つ打ち楽曲のアレンジ3」4リズムから発展させたアレンジを発表し、修正他全体アレンジバリエーションの指導を行います。
- ⑮ 「Chorus ワークについて」メロディーからの字ハモの生成方法、歌詞によるハモ箇所の設定と、WooAh に於ける Voicing の基本について説明と実践を行います。

期末試験評価方法・評価基準

出席 30% 平常点 30% 課題提出 40%(メロディ課題の1ハーフ音源を提出。マスターリズム譜面、コーラス譜面の評価。)

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	ポピュラーアレンジⅣ
担当講師名	水島康貴
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はアイドルグループからアニメや映画など様々な楽曲の作曲・アレンジ・プロデュースを担当した実務経験があります。

授業内容

4 リズムにストリングスセクション、ホーンセクションや、パーカッション、コーラスを加えた編成でのアレンジ法を学習します。さらにテーマに合わせたアレンジ力と、楽器に対するプラグインのセッティングとアプローチの仕方を習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

セクションなど各楽器の特徴を活かしたアレンジが出来るようになること、ハーモニーと奏法など効果的に楽曲に対してアプローチすることができるようになること、プラグインなどコンパクトに効率よく使いながらバランスを取れるようになることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①「バラードのアレンジ1」メロディ課題提示、バラードのリズムの組み方を説明します。全体の流れを意識し、同じ場所が無いようなアレンジを目指します。
- ②「バラードのアレンジ2」メロディ課題から目標とするリファレンスの解析と、バラード課題の組んだ4リズムを発表し、楽器構成のポイントなどを全員で検証します。
- ③「バラードのアレンジ3」4リズムから発展させたアレンジを発表し、修正他全体アレンジバリエーションの指導を行います。
- ④「カウンターラインの技法修得」バラード課題より、カウンターラインの作成方法を学びます。メロディとの関係性含めストリングスアレンジへの導入となります。
- ⑤「ストリングスアレンジ1」ピアノ、ストリングスのみの1コーラス課題。譜面の書き方について。弦はカルテットを意識した基本の動きと構成を作る技法を学びます。
- ⑥「ストリングスアレンジ2」ピアノコーラス課題の提出。1ハーフサイズストリングスの課題を提示します。
- ⑦「ストリングスアレンジ3」メロディ課題から目標とするリファレンスの解析と、ストリングス課題の組んだ4リズムを発表し、楽器構成のポイントなどを全員で検証します。

中間試験評価方法・評価基準

出席 30% 平常点 30% 課題提出 40%(メロディ課題の1ハーフ音源を提出)
ピアノストリングスのスコア譜面提出とマスターリズム譜の提出あり。

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧「ストリングスアレンジ4」4リズムから発展させたアレンジを発表し、修正他全体アレンジバリエーションの指導。譜面の書き方について。
- ⑨「ホーンセクションアレンジ1」ホーンセクションの概念と各楽器へのアプローチについて学びます。アレンジの上がっているオケにホーンセクションのみの打ち込みをします。
- ⑩「ホーンセクションアレンジ2」ホーンセクションの楽器の音場、Comp, EQ, 等についての確認と、アレンジした音源を確認し、メロディ課題を提示します。
- ⑪「ホーンセクションアレンジ3」メロディ課題から目標とするリファレンスの解析と、ホーンセクション課題の組んだ4リズムを発表し、楽器構成のポイントなどを全員で検証します。
- ⑫「ホーンセクションアレンジ4」4リズムから発展させたアレンジを発表し、修正他全体アレンジバリエーションの指導を行います。
- ⑬「テーマを指定し企画音源制作とまとめ1」各自のコンセプトを元に企画書を作成し、それに沿った音源制作を行います。2分程度。1年間のアレンジのまとめ(1)も行います。
- ⑭「テーマを指定し企画音源制作とまとめ2」企画書と照らし合わせながら音源の途中経過を発表し、全員でディスカッションを行います。1年間のまとめ(2)も行います。
- ⑮「テーマを指定し企画音源制作とまとめ3」音源の提出と企画書、譜面を提出します。1年間の総括も行います。

期末試験評価方法・評価基準

出席 30% 平常点 30% 課題提出 40%(メロディ課題の1ハーフ音源を提出)
ホーンセクションスコア提出、マスターリズム譜の提出あり。

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	ポピュラーアンサンブルⅢ
担当講師名	市川 春行
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

声優アイドルグループプロデューサー、LIVE イベント用バック BAND およびレコーディングの実務経験があります。

授業内容

アレンジ・作曲学科の学生たちによる、最もプレイヤー的な講座です。学生のこの時期にこそ、バンドアンサンブルの難しさ、楽しさ、を体感しておかなくてはならないと考えます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

メンバーの担当楽器、演奏曲（カバー）の選定から、演奏曲のシンプルなヘッドアレンジまでを、メンバー自身が話し合い、ディスカッションをしながら演奏を完成させるコミュニケーション能力を身に着けることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①メンバー初顔合わせ、話し合い、コミュニケーションしながら、BAND を結成し、担当パートを決めます。
- ②課題曲（カバー曲）選び、自分たちで演奏することを前提にカバー曲の選定をメンバー内でミーティングし、決定します。
- ③課題曲（カバー曲）練習1、まずは1コーラスをきちんと演奏できるようにリハーサルを進めましょう。
- ④課題曲（カバー曲）練習2、前回の1コーラス演奏のおさらいと、2コーラス～フルコーラス演奏を目指します。
- ⑤課題曲（カバー曲）練習3、エンディングのアレンジや、テンポやコードの確認などをして、より良い演奏を目指します。
- ⑥課題曲（カバー曲）練習4、次回の実技による TEST に備えた、フルコーラスを本番さながらに演奏する最終リハーサルです。
- ⑦当日リハーサルをした後、BAND 演奏による実技テストです。

中間試験評価方法・評価基準

演奏自体の出来不出来よりも、耳の集中力を高めた互いの音への理解と配慮、楽器によるコミュニケーションがどれ位そのバンド内にうまれてきているかを見ます。試験 30%、平常点 40%、出席状況 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧メンバー入れ替え、Vo など、各学生がやってみたいパートを入れ替え、別の編成の BAND を作ります。
- ⑨課題曲（カバー曲）選び、自分たちで演奏することを前提にカバー曲の選定をメンバー内でミーティングし、決定します。
- ⑩課題曲（カバー曲）練習 1、まずは 1 コーラスをきちんと演奏できるようにリハーサルを進めましょう。
- ⑪課題曲（カバー曲）練習 2、前回の 1 コーラス演奏のおさらいと、2 コーラス～フルコーラス演奏を目指します。
- ⑫課題曲（カバー曲）練習 3、エンディングのアレンジや、テンポやコードの確認などをして、より良い演奏を目指します。
- ⑬課題曲（カバー曲）練習 4、ギターのエフェクターやアンプ、ミキサーの使い方を研究して、一段上の BAND サウンドを目指します。
- ⑭課題曲（カバー曲）練習 5、次回の実技による TEST に備えた、フルコーラスを本番さながらに演奏する最終リハーサルです
- ⑮当日リハーサルをした後、BAND 演奏による実技テストです。

期末試験評価方法・評価基準

バンドで実際に音を出しながら仕上げたアレンジの方向性、完成度、バンドとしての演奏力の向上、を見ます。また実技試験も大切ですが、出席点も大きく加味されます。試験 30%、平常点 40%、出席状況 30%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	ポピュラーアンサンブルⅣ
担当講師名	市川 春行
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

声優アイドルグループプロデューサー、LIVE イベント用バック BAND およびレコーディングの実務経験があります。

授業内容

よりバンドとして上のレベルを目指していきます。また学生作曲によるオリジナル楽曲の演奏も試みます。期末にある発表会を「初 LIVE」の場としてとらえ、モチベーションを上げていきたいと思えます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

春学期に引き続き、学生によるコミュニケーションを主体とした BAND 活動、演奏を熟成させていくこと、さらに春学期とは違うパート、楽器を担当するなどの音楽的経験を積むこと、アイデアを出すことで、BAND 活動をより活性化させることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①メンバー入れ替え、Vo など、各学生がやってみたいパートを入れ替え、別の編成の BAND を作ります。
- ②課題曲（オリジナル曲）選び、メンバー同志コミュニケーションしながら、メンバーのオリジナル曲を選びます。
- ③課題曲（オリジナル曲）練習 1、カバーと違い、お手本がないので、より集中して、ヘッドアレンジをしていきましょう。
- ④課題曲（オリジナル曲）練習 2、まずは 1 コーラスをきちんと演奏できるようにリハーサルを進めましょう。
- ⑤課題曲（オリジナル曲）練習 3、エンディングのアレンジや、テンポやコードの確認などをして、より良い演奏を目指します。
- ⑥課題曲（オリジナル曲）練習 4、次回の実技 TEST に備えた、フルコーラスを本番さながらに演奏する最終リハーサルです。
- ⑦当日リハーサルをした後、BAND 演奏による実技テストです。

中間試験評価方法・評価基準

基本的には春学期と同じく演奏中の耳の集中力を主に評価対象とします。ただし半年たった分の「BANDとして、個人としての演奏力の向上」を期待します。試験 30%、平常点 40%、出席状況 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧メンバー入れ替え、LIVE イベント用の BAND を結成します。
- ⑨LIVE 演奏曲選び、LIVE で演奏することを前提に、1～3Q で練習したレパートリーも含め、選曲します。
- ⑩LIVE 演奏曲練習 1、まずは 1 コーラスをきちんと演奏できるようにリハーサルを進めましょう。
- ⑪LIVE 演奏曲練習 2、前回の 1 コーラス演奏のおさらいと、2 コーラス～フルコーラス演奏を目指します。
- ⑫LIVE 演奏曲練習 3、エンディングのアレンジや、テンポやコードの確認などをして、より良い演奏を目指します。
- ⑬LIVE 演奏曲練習 4、LIVE イベントに向けて、ギターやベースのアンプ、マイクやマイクスタンドの扱い方を確認します。
- ⑭LIVE 演奏曲練習 5、フルコーラスを本番さながらに演奏します。ギター、ベースはストラップを用い、立って演奏します。
- ⑮当日リハーサルをした後、BAND 演奏による実技テストです。

期末試験評価方法・評価基準

1年を通じどれ程進歩があったかをみます。またきちんとリハーサル（授業）に出席し、バンドで音あわせをする、というのが大切なので出席点も加味されます。試験 30%、平常点 40%、出席状況 30%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	ポピュラーアンサンブルⅢ
担当講師名	奈良部匠平
学期	春学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作・編曲家・キーボーディストとしてステージやレコーディング・スタジオでの経験豊富。関連アーティスト：渡辺美里、米米 CLUB、松田聖子、高垣彩陽、Skeleton Key (Band / Remix)、ユンサン(윤상)、林憶蓮(Sandy Lam)

授業内容

学生が個々に楽曲をセレクトし、譜面を書き、演奏をし、その曲のリーダーとしてリハーサルを取り仕切る。コンサートに向けてのライブプロデュースをする。授業の進み具合により、スケジュールが前後することがあります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブルの形態で、個々が担当楽器の特性をよく知り演奏することにより、全体の最終的なサウンドを構築するために、個々の楽器が成す役割を理解することができる。

生楽器のアンサンブル経験は、サウンドプロデュースの基本的な考え方の上に立ち、作・編曲にも威力を発揮する。

また、ライブ演奏の能力は自己の楽曲をひろめるだけでなく、同業者との大切なコミュニケーションツール、ネットワークツールでもある。良い演奏は確実に次の仕事につながっていく。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 顔あわせと、各楽器パートの確認、ブルースコードでのセッション。
その後の各自担当の楽曲スケジュールを決める。
- ② 楽曲1の練習。各楽器間のタイミング、グルーブ、音量バランスを意識する。
- ③ 楽曲1の仕上げと、楽曲2の方向性を話し合い練習する。
歌（メロディ）に対する伴奏である各パートの存在の意味を確認する。
- ④ 楽曲2の仕上げと。楽曲3の方向性を話し合い練習する。
アドリブなども取り混ぜる。

- ⑤ 楽曲3の仕上げと、楽曲4の方向性を話し合い練習する。
コーラスの強化練習もする。
- ⑥ 楽曲4の仕上げと、楽曲5の方向性を話し合い練習する。
歌をバックアップし、聞かせる工夫をする。
- ⑦ このクォーターで練習した楽曲の発表会をする。

中間試験評価方法・評価基準

まじめに練習・リハーサルに取り組んだか。個性はあるか。
出席：80% 平常点：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 楽曲5の仕上げと。楽曲6の方向性を話し合い練習する。
ギターやキーボードなど、重なる楽器では特に明確なパート分けをする。
- ⑨ 楽曲6の仕上げと、楽曲7の方向性を話し合い練習する。
- ⑩ 楽曲7の仕上げと、楽曲8の方向性を話し合い練習する。
- ⑪ 楽曲9の仕上げと、楽曲10の方向性を話し合い練習する。
- ⑫ 楽曲10の仕上げと。このクォーターの楽曲からピックアップし練習する。
- ⑬ 春学期の楽曲からピックアップし練習を始める。
- ⑭ 春学期の楽曲からピックアップし練習を続ける。
- ⑮ ピックアップした春学期の楽曲の発表会をする。

期末試験評価方法・評価基準

まじめに練習・リハーサルに取り組み、目標は到達できたか。個性はあるか。
出席：80% 平常点：20%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	ポピュラーアンサンブル IV
担当講師名	奈良部匠平
学期	秋学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作・編曲家・キーボーディストとしてステージやレコーディング・スタジオでの経験豊富。関連アーティスト：渡辺美里、米米 CLUB、松田聖子、高垣彩陽、Skeleton Key (Band / Remix)、ユンサン(윤상)、林憶蓮(Sandy Lam)

授業内容

学生が個々に楽曲をセレクトし、譜面を書き、演奏をし、その曲のリーダーとしてリハーサルを取り仕切る。コンサートに向けてのライブプロデュースをする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブルの形態で、個々が担当楽器の特性をよく知り演奏することにより、全体の最終的なサウンドを構築するために、個々の楽器が成す役割を理解することができる。

生楽器のアンサンブル経験は、サウンドプロデュースの基本的な考え方の上に立ち、作・編曲にも威力を発揮する。

また、ライブ演奏の能力は自己の楽曲をひろめるだけでなく、同業者との大切なコミュニケーションツール、ネットワークツールでもある。良い演奏は確実に次の仕事につながっていく。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春学期に登場しなかったジャンルの曲を演奏してみる。Funk、Soul の楽曲にチャレンジ。
- ② Blues、Rock の楽曲にチャレンジ。
- ③ Jazz、Latin Music の楽曲にチャレンジ。
- ④ Reggae、Ska の楽曲にチャレンジ。
- ⑤ HipHop、R&B の楽曲にチャレンジ。
- ⑥ 本番に向けたバンドのコンセプトを話し合い、今までの楽曲をあたり使用曲を決める。
- ⑦ 楽曲リストの修正をしつつリハーサルをする。

中間試験評価方法・評価基準

まじめに練習・リハーサルに取り組んだか。個性はあるか。

出席：80% 平常点：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ リハーサルの中で本番に向けた楽曲リストを決定する。
- ⑨ 本番に向けた楽曲に絞った練習の総当たりをはじめる。
- ⑩ 本番に向けた楽曲に絞った練習の総当たりを完了する。
- ⑪ 本番に向け、全体の三分の一の曲の仕上げをする。
- ⑫ 本番に向け、次の三分の一の曲の仕上げをする。
- ⑬ 本番に向け、残りの三分の一の曲の仕上げをする。
- ⑭ 本番に向けた場当たり、MCを含めた部分通しのリハーサルをする。
- ⑮ コンサート本番に向けた最終通しリハーサルをする。

期末試験評価方法・評価基準

まじめに練習・リハーサルに取り組み、目標は到達できたか。個性はあるか。

出席：80% 平常点：20%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	ポピュラーアンサンブルⅢ
担当講師名	阿部玲
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、メジャーアーティストのプロデュース、作曲、アレンジ、サポートプレイヤーなどの実務経験があります。

授業内容

DAW での楽曲制作においても躍動感のある表現を身につけるため、バンド演奏を実際に経験し、生きたグルーブを体感します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

共同して音楽を創り上げる楽しさを経験し、そのために必要なスキルを学びます。個々の演奏能力の高低だけでなく、音作りや全体のバランスによって完成度が変わってくることを理解できるよう、目指していきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①話し合い、コミュニケーションをしながら担当楽器を決め、バンドの方向性を考えます。
- ②部分的に演奏し、各自の技量も考慮して曲を選定します。Vo のキーに合わせ、必要ならば移調も行います。
- ③前週との間に個人練習しておいた成果を全体練習で確認し、皆で音を合わせる楽しさ、難しさを体験します。
- ④前週見つけた問題点を各自修正しつつ、解決に向けて話し合います。機材セッティングの基礎も学びます。
- ⑤自分の音だけでなく、他の演奏者の音、そして全体の調和に耳を傾けられるようにします。
- ⑥次回の実技テストを見据えて、本番さながらの緊張感でフルコーラスをリハーサルします。

⑦当日リハーサルをした後、バンド演奏による、課題曲の実技テストを行います。

中間試験評価方法・評価基準

まずは既存曲をオリジナル通りに、丁寧にコピーすることを目標とします。個人の技量差によりそれが困難な場合でも、互いに配慮、理解できるかを見ます。出席点 40%、平常点 30%、試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧1クォーターでの成果を踏まえ、必要や要望があれば、パートの入れ替えを行います。新しい課題曲を選定します。
- ⑨部分的に演奏し、各自の技量も考慮して曲を選定します。Voのキーに合わせ、必要ならば移調も行います。
- ⑩前週との間に個人練習しておいた成果を全体練習で確認し、問題点があれば解決に向けて話し合いを行います。
- ⑪これまでとはタイプの異なる曲調、リズムの楽曲にもチャレンジします。
- ⑫譜面通りに演奏しているはずなのになぜか違和感がある場合、その原因を分析、解決していきます。
- ⑬各自思いついたアレンジなどがあれば、積極的に取り入れ、話し合いながら完成度を高めます。
- ⑭次回の実技テストを見据えて、本番さながらの緊張感でフルコーラスをリハーサルします。
- ⑮当日リハーサルをした後、バンド演奏による、課題曲の実技テストを行います。

期末試験評価方法・評価基準

既存曲の完全コピーに囚われることなく、自分に合った奏法やアイデアがあれば積極的に挑戦して構いません。ミスを恐れることなく、のびのびとプレイすることを目標とします。出席点 40%、平常点 30%、試験 30%

特記事項

自分の担当の楽器は各自持参すること。楽器の貸出はしていません。（ドラムの場合、キットは教室にあるので、スティックを持参）

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	ポピュラーアンサンブルⅣ
担当講師名	阿部玲
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、メジャーアーティストのプロデュース、作曲、アレンジ、サポートプレイヤーなどの実務経験があります。

授業内容

春学期で習得した技術を発展させ、オリジナル曲の演奏に取り組みます。課題曲はメンバーによる話し合いで決めますので、理解が得られれば、例えば「ボカロで制作した曲を実際のボーカルで演奏してみる」といったアプローチも可能。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

オリジナル曲の演奏はカバー曲と異なりお手本が無い場合、これまでとは異なる困難さを伴うこともあります。作曲者の意図を理解しつつ、各々がクリエイティブにアイデアを実現していくことを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①話し合い、コミュニケーションをしながら担当楽器を決め、バンドの方向性を考えます。
- ②部分的に演奏し、各自の技量も考慮して曲を再吟味します。Voのキーに合わせ、必要ならば移調も行います。
- ③まずは1コーラスで曲が成立することを目指します。面白味に欠ける場合はリズムやメロディを再考します。
- ④フルコーラスを演奏し、曲がドラマのように抑揚のある展開になっているかどうかをチェックします。
- ⑤自分の音だけでなく、他の演奏者の音、そして全体の調和に耳を傾けられるようにします。
- ⑥次回の実技テストを見据えて、本番さながらの緊張感でフルコーラスをリハーサルしま

す。

⑦当日リハーサルをした後、バンド演奏による、課題曲の実技テストを行います。

中間試験評価方法・評価基準

作曲者は、メンバーに意図が伝わるような工夫をしているか？メンバーは、作曲者の狙いを理解した上で、個性的なアプローチをしているか？が評価の対象となります。出席点 40%、平常点 30%、試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

⑧話し合いをしながら担当楽器を決め、オリジナル曲を持ち寄り、課題曲及びリーダーを決めます。

⑨部分的に演奏し、各自の技量も考慮して曲を再吟味します。Voのキーに合わせ、必要ならば移調も行います。

⑩まずは1コーラスで曲が成立することを目指します。面白味に欠ける場合はリズムやメロディを再考します。

⑪フルコーラスを演奏し、曲がドラマのように抑揚のある展開になっているかどうかをチェックします。

⑫自分の音だけでなく、他の演奏者の音、そして全体の調和に耳を傾けられるようにします。

⑬各自思いついたアレンジなどがあれば、積極的に取り入れ、話し合いながら完成度を高めます。

⑭次回の実技テストに備え、MC含め本番さながらの緊張感でフルコーラスをリハーサルします。

⑮当日リハーサルをした後、バンド演奏による、課題曲の実技テストを行います。

期末試験評価方法・評価基準

バンドは、他者と共同作業をして楽曲を創り上げる作業です。チームプレイですので出席点が大切なのはもちろん、全体として高め合う姿勢があるかどうかを最重視します。出席点 40%、平常点 30%、試験 30%

特記事項

自分の担当の楽器は各自持参すること。楽器の貸出はしていません。（ドラムの場合、キッドは教室にあるので、スティックを持参）

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	スタイル別作曲技法 A I (歌モノ)
担当講師名	市川 春行
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

メジャーレーベル所属アーティスト、アイドル、声優さん達への楽曲提供、また配信による声優アイドルグループデビュープロジェクトやライブイベントプロデュース、の実務経歴があります。

授業内容

この科目では、講師の実務経歴（声優アイドルグループプロデュース、J-pop 楽曲提供コンペ作家）に基づく、DJ やサントラといったインスト系楽曲をメインに学ぶ学生を主に対象とした、歌もの POPS 制作講座です。毎回シンプルなテーマの制作実習をこなすことにより、歌もの POPS への理解を深めます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

「人の声」による表現をまず研究し、その特徴と制約を知ったうえで、歌もの POPS の基本的な制作知識とノウハウを体得します。それらは毎回モチーフという形で、学生各人により音楽 DATA として制作され、学生各人のスキルとなることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①授業の目標の提示、一年後の目標と、そこへ至る過程を、皆と確認します。
- ②マリの POPS、どこの国にも POPS は存在します。ここでは、マリ共和国の POPS をイメージし、制作を楽しみましょう。
- ③ビートの話、歌の伴奏としてのリズムアレンジの考え方や、POPS としての「わかりやすい」ビートの解説をします。
- ④4 CHORDS について 1、まず手始めに、J-pop よりもシンプルな洋楽 POPS を制作してみましょう。4 CHORDS ループの制作実習をします。
- ⑤4 CHORDS について 2、前週制作した 4 CHORDS のコードループに、アレンジとメロディメイクによって、A メロ・サビ形式に発展させましょう。
- ⑥4 CHORDS の POPS1、制作した 4 CHORDS の A とサビの間に 2～8 小節の別のコード進行セクションを挿入し、より A とサビを差別化しましょう。
- ⑦4 CHORDS の POPS2、前週制作した 4 CHORDS を軸とした洋楽的 POPS を仕上げ、提出します。試験となります。

中間試験評価方法・評価基準

授業内で提出された作品を発表し、評価します。また、クラスの皆にもそれぞれコメントをしてをもらいます。平常点 40%提出物 30% T E S T 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧定番コード進行1、**J-pop** に多いコード進行として、4-5-3-6 進行を紹介し、またそれを使用したモチーフを制作実習します。
- ⑨定番コード進行2、**J-pop** に多いコード進行として、カノン進行を紹介し、またそれを使用したモチーフを制作実習します。
- ⑩定番コード進行3、**J-pop** に多いコード進行として、小室進行を紹介し、またそれを使用したモチーフを制作実習します。
- ⑪定番コード進行番外編1、FM7 から順次下降し、CM7 に落ちるとい、いわゆる Loving You 進行を紹介し、またそれを使用したモチーフを制作実習します。
- ⑫定番コード進行番外編2、循環コード（強進行）にみえて、実は弱進行とい、FM7-E7-Am7-C7 を紹介し、またそれを使用したモチーフを制作実習します。
- ⑬**J-pop** 制作1、これから3回はオケ先という手法に焦点を当て、基本的な J-POP フォーマットのオケの制作実習を行います。
- ⑭**J-pop** 制作2、イントロ-A メロ-B メロ-サビ-サビ（ダッシュ）の 3rhythm オケトラックの制作実習をします。
- ⑮**J-pop** 制作3、提出された **J-pop** トラックの中から任意に2、3ヶを指定し、各人がメロディを考え、入力し、提出します。試験となります。

期末試験評価方法・評価基準

授業内で提出された作品を発表し、評価します。また、クラスの皆にもそれぞれコメントをしてをもらいます。平常点 40%提出物 30% T E S T 30%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	スタイル別作曲技法 A II (歌モノ)
担当講師名	市川 春行
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

メジャーレーベル所属アーティスト、アイドル、声優さん達への楽曲提供、また配信による声優アイドルグループデビュープロジェクトやライブイベントプロデュース、の実務経験があります。

授業内容

前期で学んだ知識やテクニックを再確認し、更に一步踏み込んだ歌もの **POPS** 制作を目指します。**J-pop** というものに特化し、研究し、最終クォータでは、実際にコンペに提出するような形での **J-pop** デモ楽曲の制作実習を行います。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

春学期に学んだ、歌もの **POPS** の基本的な制作知識とノウハウに加え、**J-pop** に特化した様々な知識を学び、「実際のコンペに対応でき得るレベルの **J-pop** 楽曲デモ」の制作も行えるようになることを目指します。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①ダイアトニック進行以外のアイデア 1、コード進行ではなく、トライアドを使用したコードリフの制作を紹介します。
- ②ダイアトニック進行以外のアイデア 2、マイナークリシェ、SUS4 的ドミナントモーション時の使用等、分数コードの種類と使用法の解説です。
- ③ダイアトニック進行以外のアイデア 3、分数コードについて、ここでは代表的な分数コードを使用した進行を紹介し、制作実習をします。
- ④ダイアトニック進行以外のアイデア 4、ダイアトニック進行にとらわれないアイデアとして、メジャーコードの「クリシェ」を紹介します。
- ⑤洋楽の **J-pop** 化 基礎知識、**J-pop** の特徴である、**B** メロおよびサビ” (ダッシュ) について詳しく解説します。
- ⑥洋楽の **J-pop** 化 (**B** メロ付加) 既存の洋楽に、**B** メロおよびサビ” (ダッシュ) を新たに作成、付加し、**J-pop** 化させます。
- ⑦洋楽の **J-pop** 化 提出 既存の洋楽を **J-pop** 化し、完成させて、提出します。**Q** 末試験となります。

中間試験評価方法・評価基準

授業内で提出された作品を発表し、評価します。また、クラスの皆にもそれぞれコメントをしてをもらいます。平常点 40%提出物 30% T E S T 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧コード一発もの、ダイアトニック進行を使わない、「コード一発もの」、という切り口を考察します。
- ⑨BLUES について、POPS では少ない、BLUES 形式のヒット POPS を紹介、考察します。
- ⑩J-POP デモ制作、ベーシック 1、指定した構成とコード進行に、テンポ、ビート、ジャンル感を付加し、コンペ対応レベルの J-POP 制作です。
- ⑪J-POP デモ制作、ベーシック 2、先週に引き続き、オリジナル J-pop の制作実習をし、完成形を皆で聞きあいます。
- ⑫J-POP デモ制作 サビの転調 1、サビと AB メロのキーを変える、いわゆる小室転調を、Demo に施します。
- ⑬J-POP デモ制作 サビの転調 2、前回から作業している、転調の DATA を完成させます。また発表会をし、皆でお互いの DATA を確認します。
- ⑭J-POP デモ制作 仕上げ、上ものアレンジ、イントロの作成、歌詞（1 番のみ）の作成をして、完成させます。
- ⑮J-POP デモ制作&提出、仕上げを終えた、J-POP デモを、Wav（デモ音源）と Text（歌詞）で提出し、Test とます。

期末試験評価方法・評価基準

授業内で提出された作品を発表し、評価します。また、クラスの皆にもそれぞれコメントをしてをもらいます。平常点 40%提出物 30% T E S T 30%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	スタイル別作曲技法 A I (劇伴)
担当講師名	大久保賢
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は DTM を用いたオーケストラ作品を主にエンタテインメント業界に提供している実務経験を持ちます。

授業内容

様々な種類の映像に対してどのようなアプローチで音楽を作成していくかを具体的に解説し、応用できるようにします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

配布した映像の意図を読み取り、それに対応する楽曲が制作できるような技術の習得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①チェロとピアノを中心に、編曲について解説。
- ②映像課題を配布し、音楽を作成します。
- ③作品発表会の実施。作品に添削を行います。
- ④躍動感のあるアレンジ。弦の使い方を中心に、編曲について解説。
- ⑤ホラー系音楽の作編曲について解説します。
- ⑥試験課題を配布し、音楽を作成します。
- ⑦作品発表会の実施。作品に添削を行います。

中間試験評価方法・評価基準

作品提出をおこないます。

映像の意図を読み取り、それに対応する楽曲が制作できているかを確認。

課題提出：40% 出席点：30% その他：30%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Jazz について解説を行う。
- ⑨映像課題を配布し、音楽を作成します。
- ⑩作品発表会の実施。作品に添削を行います。
- ⑪明るいアニメ系の BGM について解説します。
- ⑫映像課題を配布し、音楽を作成します。
- ⑬作品発表会の実施。作品に添削を行います。
- ⑭シリアス系 BGM のアレンジについて解説します。試験課題を配布。
- ⑮作品発表会の実施。作品に添削を行います。

期末試験評価方法・評価基準

作品提出をおこないます。

映像の意図を読み取り、それに対応する楽曲が制作できているかを確認。

課題提出：40% 出席点：30% その他：30%。

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	スタイル別作曲技法 A I I (劇伴)
担当講師名	大久保賢
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は DTM を用いたオーケストラ作品を主にエンタテインメント業界に提供している実務経歴を持ちます。

授業内容

様々な種類の映像に対してどのようなアプローチで音楽を作成していくかを具体的に解説し、応用できるようにします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

配布した映像の意図を読み取り、それに対応する楽曲が制作できるような技術の習得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ピアノと木管楽器を中心に、編曲について解説。
- ②映像課題を配布し、音楽を作成します。
- ③作品発表会の実施。作品の添削を行います。
- ④ギターアレンジについて解説。
- ⑤映像課題を配布し、音楽を作成します。
- ⑥試験課題の制作を行います。
- ⑦作品発表会の実施。作品の添削を行います。

中間試験評価方法・評価基準

作品提出をおこないます。

映像の意図を読み取り、それに対応する楽曲が制作できているかを確認。
課題提出：40% 出席点：30% その他：30%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧和の雰囲気音楽について解説。
- ⑨映像課題を配布し、音楽を作成します。
- ⑩作品発表会の実施。作品の添削を行います。
- ⑪不思議な雰囲気BGMについて解説。
- ⑫映像課題を配布し、音楽を作成します。
- ⑬Brass編成の編曲について解説。
- ⑭映像課題を配布し、音楽を作成します。
- ⑮作品発表会の実施。作品の添削を行います。

期末試験評価方法・評価基準

作品提出をおこないます。
映像の意図を読み取り、それに対応する楽曲が制作できているかを確認。
課題提出：40% 出席点：30% その他：30%。

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	プレゼンテーションⅡ
担当講師名	宮坂直樹
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、映画、ラジオ、CM等の音楽制作、楽曲提供などを行う作曲家、編曲家、マネージャーとして、また、アーティストや声優のサポートを行うギタリストとしての実績があります。

授業内容

作曲家、アレンジャー、作詞家などの音楽クリエイターや自作自演アーティストとしてデビューすることや自主的な専門活動を行うこと、または就職を目指す卒業年次生が必要な知識を挾持するための授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽クリエイターやアーティストになるための、または就職、進学するための総合的な必要知識を身につけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①デモの作り方（ソングライター編）を学びます。ソングライターとして魅力的に感じてもらいやすく、聴かせた相手による反応効果を高めるためのデモについて理解します。
- ②デモの作り方（劇伴作家編）を学びます。劇伴作家として魅力的に感じてもらいやすく、聴かせた相手による反応効果を高めるためのデモについて理解します。
- ③デモの作り方（自作自演アーティスト編）を学びます。自作自演アーティストとして魅力的に感じてもらいやすく、聴かせた相手による反応効果を高めるためのデモについて理解します。
- ④就業活動の必要性と音楽業界の実際についてを学びます。デビュー・就職講座と連携して、音楽クリエイターや自作自演アーティストに特化した内容を学習します。

- ⑤音楽クリエイターや自作自演アーティストになるために必要な基本ツールとしてのデモ音源とプロフィールの作成方法について学びます。
- ⑥楽曲の精度をさらに高めるために、既存曲研究の重要性と有効な手段（基本編）を学びます。
- ⑦プロに必要なマインドと大衆性や商業的成功のキーワードを理解します。

中間試験評価方法・評価基準

レポート課題 50% 出席 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧学内の「業界オーディション」に関する情報とその活用方法を把握します。
- ⑨外部オーディションに関する情報とその活用方法を把握します。
- ⑩近年のアレンジ・作曲学科卒業生の進路実績に基づき、音楽業界を主とした就職についての情報を把握します。
- ⑪近年のアレンジ・作曲学科卒業生の進路実績に基づき、進学についての情報を把握します。
- ⑫楽曲の精度をさらに高めるために、既存曲研究の重要性と有効な手段（応用編）を学びます。
- ⑬就業活動において必要な知識のひとつであるメールの正しい扱い方を学習します。
- ⑭就業活動において必要な知識のひとつである履歴書の正しい書き方を学習します。
- ⑮就業活動において必要な知識のひとつである正しい面談・面接の受け方を学習します。

期末試験評価方法・評価基準

レポート課題 50% 出席 50%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	プレゼンテーションⅡ
担当講師名	宮坂直樹
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、映画、ラジオ、CM等の音楽制作、楽曲提供などを行う作曲家、編曲家、マネージャーとして、また、アーティストや声優のサポートを行うギタリストとしての実績があります。

授業内容

作曲家、アレンジャー、作詞家などの音楽クリエイターや自作自演アーティストとしてデビューすることや自主的な専門活動を行うこと、または就職を目指す卒業年次生が必要な知識を挾持するための授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

プレゼンテーション力を養い、さらに社会人になるために必要な知識やマナーもしっかりと身につけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①自主活動について①を学習します。音楽事務所とは関わらずに自主的な音楽活動を行うということとは何かを把握します。
- ②自主活動について②を学習します。著作物を自主制作する際のワークフローを把握します。
- ③自主活動について③を学習します。自主制作した著作物の権利、および、関連する著作権法について把握します。
- ④自主活動について④を学習します。自主制作した著作物の公開、および、管理について把握します。
- ⑤公的な文書をはじめとした様々な文書の体裁や書き方を学習します。
- ⑥報告書の作り方を学習します。報告書に必要な項目、体裁、書き方を把握します。

⑦年度末に実施されるポピュラーアンサンブル成果物発表ライブの準備の一環として必要なステージプラン表の作り方を学習します。

中間試験評価方法・評価基準

レポート課題 50% 出席 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧魅力的な企画書の作り方について学びます。必要な項目、体裁、書き方を把握します。
- ⑨自主活動について⑤を学習します。自主制作を行う個人とチームワーク（コラボ等）について把握します。
- ⑩自主活動について⑥を学習します。著作物を軸としたイベントについて考察します。
- ⑪自主活動について⑦を学習します。作品のブラッシュアップについて考察します。
- ⑫自主活動について⑧を学習します。トラブルとそれに対する対策、対応を把握します。
- ⑬活動に必要なコミュニケーションについて学習します。会話の基本、報連相、傾聴力について学びます。
- ⑭機密保持情報の扱い方について把握します。
- ⑮1年を通じて学習した内容の総括的な確認を行います。社会人としてのマナーや心構えを把握します。

期末試験評価方法・評価基準

レポート課題 50% 出席 50%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	ソング制作Ⅲ
担当講師名	藤井丈司
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、音楽業界（J-POP）での多くのヒット曲と、プロデュース/アレンジの経験を持っています。

授業内容

作詞 作曲 アレンジ 録音 ミックス 楽曲制作の総合力をじっくりと身につける授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

歌詞のついたボーカル入りの楽曲制作がアレンジも含めて出来るようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション/能力テスト
- ② 楽曲解析「アニソン 1-A」(supercell)
- ③ 楽曲解析「アニソン 1-B」(オーイシマサヨシ)
- ④ 講義「ポップスのかたち」
- ⑤ モチーフ練習（リズムの変化）
- ⑥ オリジナル曲発表①
- ⑦ MIDI コピー提出①/自作曲解析譜面提出①/ペーパーテスト①

中間試験評価方法・評価基準

出席/平常点 20% 課題 40% (MIDI コピー/解析譜面) テスト 40% (楽曲/ペーパーテスト)

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ 楽曲解析「J-POP」A (オフィシャル髭ダンディズム)
- ⑨ 楽曲解析「J-POP」B (YOASOBI)
- ⑩ 良い曲を書く方法①
- ⑪ モチーフ練習② コードつけ
- ⑫ モチーフ練習③ (セカドミ/モダチェン)
- ⑬ モチーフ練習④ (カウンターメロディ) /ここまでのふりかえり①
- ⑭ オリジナル曲発表②
- ⑮ MIDI コピー提出②/自作曲解析譜面提出②/ペーパーテスト②

期末試験評価方法・評価基準

出席/平常点 20% 課題 40% (MIDI コピー/解析譜面) テスト 40% (楽曲/ペーパーテスト)

特記事項

オリジナルはフリージャンルOKです。
ジャンルやリズム、コード進行の指定はありません。
フィルや構成、ノンダイアトニックコードの使用など細かい指定はあります。

出席や平常点はリアクションペーパーの提出と内容で判断します。

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	ソング制作IV
担当講師名	藤井丈司
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、音楽業界（J-POP）での多くのヒット曲と、プロデュース／アレンジの経験を持っています。

授業内容

作詞 作曲 アレンジ 録音 ミックス 楽曲制作の総合力をじっくりと身につける授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

イントロ、間奏、カウンターメロディなど、よりプロ志向の楽曲制作ができるようになる。自分の目指した楽曲を作り、世の中にしっかりと発表していける制作能力を身につける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 秋学期の目標／「シティポップ」の歴史
- ② 楽曲解析「シティポップ」A（ユーミン）
- ③ 楽曲解析「シティポップ」A（竹内まりや）
- ④ 楽曲解析「シティポップ」A（サカナクション）
- ⑤ モチーフ練習⑤（リフとポリリズム）
- ⑥ オリジナル曲発表③
- ⑦ MIDI コピー提出③／自作曲解析譜面提出③／ペーパーテスト

中間試験評価方法・評価基準

出席／平常点 20% 課題 40%（MIDI コピー／解析譜面）テスト 40%（楽曲／ペーパーテスト）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アニソンの作家探求
- ⑨ 楽曲解析「アニソン 2-A」（菅野よう子）
- ⑩ 楽曲解析「アニソン 2-B」（米津玄師）
- ⑪ 楽曲解析「アニソン 2-B」（梶浦由紀）
- ⑫ モチーフ練習⑥（ブルース→R&R→ロック）
- ⑬ ここまでのふりかえり②
- ⑭ オリジナル曲発表④
- ⑮ MIDI コピー提出④／自作曲解析譜面提出④／ペーパーテスト④

期末試験評価方法・評価基準

出席／平常点 20% 課題 40%（MIDI コピー／解析譜面）テスト 40%（楽曲／ペーパーテスト）

特記事項

秋学期の発表曲には、春学期より細かい指定があります。
出席や平常点はアクションペーパーの提出と内容で判断します。

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	レコーディングディレクションⅢ
担当講師名	K-Muto
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は国内外でのメジャーレーベル、インディーズレーベルのボーカルアーティストにおけるリリース作品に加え TVCM の音楽制作の作曲、編曲、プロデューサーとしての豊富な知識と経験、キャリアがあります。

授業内容

レコーディング全般に関わるスタジオ作業において必要な知識と技術を実際のレコーディングで使用されている DAW を分析して理解を深めると同時に試演（レコーディング）を交えて学習していきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

作曲～アレンジ～プリプロダクション～レコーディングに入るまでの流れを理解し、知識とディレクション技術を習得します。

尚、履修学生が制作した作品をこの授業の教育成果物とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 一年間の授業の流れとレコーディングまでのスタジオ作業の流れを解説します。
- ② 音楽制作環境についてリファレンスモニター、ヘッドフォン、オーディオインターフェース、吸音、DAW、など音楽制作環境について解説します。
- ③ ボーカルレコーディングでのディレクションと注意点を確認します。
- ④ 試演（ボーカルダビング）
- ⑤ ボーカル セレクトについて学習します。
- ⑥ ボーカル エディットについて学習します。

- ⑦ 試験（作品提出→試聴/個別評価）を行います。

中間試験評価方法・評価基準

試演で録音したボーカルデータを使用してアレンジ作品を提出。

ボーカル素材を活かしたアレンジになっているかを評価します。

出席：30% 平常点：20% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ マスターリズム譜が正確に書けるか確認します。
⑨ レコーディングマルチ分析① リズムトラックの組み立て方について（エレクトロ系）
⑩ レコーディングマルチ分析② リズムトラックの組み立て方について（生シミュレーション系）
⑪ レコーディングマルチ分析③（シンセ系 上モノの組み立て方について）
⑫ レコーディングマルチ分析④（ヴォーカルセッションについて）
⑬ 試演（ボーカルダビング）
⑭ レコーディングマルチ分析⑤（ギターアレンジについて）
⑮ 試験（作品提出→試聴/個別評価）を行います。

期末試験評価方法・評価基準

試演で録音したボーカルデータを使用してアレンジ作品を提出。

ボーカル素材を活かしたアレンジになっているかを評価します。

出席：30% 平常点：20% 試験：50%

特記事項

各クォーター終了後4時間の別途試演を行います。

1Q末にはBASSダビングを行います。

2Q末にはGuitarダビングを行います。

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	レコーディングディレクションⅣ
担当講師名	K-Muto
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は国内外でのメジャーレーベル、インディーズレーベルのボーカルアーティストにおけるリリース作品に加え TVCM の音楽制作の作曲、編曲、プロデューサーとしての豊富な知識と経験、キャリアがあります。

授業内容

レコーディング全般に関わるスタジオ作業において必要な知識と技術を実際のレコーディングで使用されている DAW を分析して理解を深めると同時に試演（レコーディング）を交えて学習していきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

レコーディングに関わる作業をスタジオで実践し、経験する事により自分なりの個性を表現出来るサウンドプロデューサーとして、また自身の活動への足がかりを作る事が出来る様にテクニックと技術を習得します。
尚、履修学生が制作した作品をこの授業の教育成果物とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 打ち込みによるストリングアレンジテクニックを学習します
- ② 打ち込みによるホーンアレンジテクニックを学習します。
- ③ 鍵盤系アレンジテクニックを学習します。
- ④ コーラスアレンジについて学習します。
- ⑤ 試演（キーボードダビング）
- ⑥ ホーンアレンジの譜面をチェックします。
- ⑦ 試験（作品提出→試聴/個別評価）を行います。

中間試験評価方法・評価基準

2Q 試験で提出した作品にホーンアレンジを加えて譜面と共に提出。
ボーカル曲のホーンアレンジに適しているかを評価します。
出席：30% 平常点：20% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ トラッキングについて学習します。
- ⑨ ミックスダウン① バランスのとりかたについて学習します。
- ⑩ ミックスダウン② 基本的な EQ, ダイナミクス系、エフェクター系の扱い方を学習します
- ⑪ 試演（ドラム音出し）
- ⑫ ミックスダウン③ ミックスダウンを実演していきます。
- ⑬ ミックスダウン⑤ ミックスダウンを実演していきます。
- ⑭ マスタリングについて解説します。
- ⑮ 試験（作品提出→試聴/個別評価）を行います。

期末試験評価方法・評価基準

3Q 試験で提出した作品にストリングスアレンジを加えて譜面と共に提出もしくは
新曲にストリングスをアレンジをして提出。
ボーカル曲のストリングスアレンジに適しているかを評価します。
出席：30% 平常点：20% 試験：50%

特記事項

各クォーター 終了後4時間の別途試演を行います。
3Q 末には Horn ダビングを行います。
4Q 末には Strings ダビングを行います。

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	作詞 I
担当講師名	浅田祐介
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はアーティストとしてデビューし、さらにプロデューサーとして数多くのアーティストのヒット曲を送り出す等の実務経験を持ちます。

授業内容

日本語の歌詞を書くにあたり、まずは日本の名作文学を研究して特徴をつかんだり、基本的な日本語での文章の特徴を学びましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

日本文学の特徴・その時代の先見性、世界観を理解することを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①「オリエンテーション」授業使用 FB アカウントグループの作成などを行います。
- ②「日本文学分析（1）」宮沢賢治研究。自然主義の理解。
- ③「日本文学分析（2）」中原中也研究。ダダイズムの理解。
- ④「日本文学分析（3）」谷川俊太郎研究。画角やスケールの変化。
- ⑤「日本文学分析（4）」吉本ばなな。リズム感や時代感を理解。
- ⑥「日本語研究」日本語の特徴。言語学的な他国ごとの差を理解。
- ⑦「テーマに沿った短歌3編を提出」騒動的な日本語の文章作りの理解度。

中間試験評価方法・評価基準

日本語の詩の世界観を理解できているかについて評価をします。
試験結果 30%、平常点 30%、出席等 40%、

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧「詩と歌詞の差」歌い回しや、リズムの理解。
- ⑨「作詞テクニック（1）母音」実際の歌い易さを理解しているか。
- ⑩「作詞テクニック（2）歌い回し」覚え易い流れとは何かを理解しているか。

- ⑪「作詞テクニック (3) 比喻」比喻の重要性を理解できているか。
- ⑫「作詞テクニック (4) 整合性」アーティスト像をイメージできているか。
- ⑬「歌詞をつける ラフ」イメージ通りであった歌詞。
- ⑭「歌詞をつける ブラッシュアップ」より刺さる歌詞へ
- ⑮「テーマに沿った楽曲提出」実際の音源試聴・ディスカッション。

期末試験評価方法・評価基準

基本を守り、魅力的な歌詞が書かれているかどうかについて評価をします。
試験結果 30%、平常点 30%、出席等 40%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	作詞Ⅱ
担当講師名	浅田祐介
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はアーティストとしてデビューし、さらにプロデューサーとして数多くのアーティストのヒット曲を送り出す等の実務経験を持ちます。

授業内容

更に歌詞についての学習。実際に歌詞をつけてみたり、仮想タイアップ案件を用意しキーワード縛りなど、実際の現場に近い体験をしてもらいながら、歌詞を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

条件や制約等がある中で、様々なテクニックを駆使して、魅力的、印象的な作品が作れるようになることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①「作詞テクニック（5）2つのテーマ」共感・羨望のシステム メロ譜やシンセメロに歌詞をつけます。
- ②「作詞テクニック（6）音としての面白さ」日本特有のオノマトペや、音としての面白さを紹介します。
- ③「作詞テクニック（7）ラップ」ラップというジャンルについての考察 韻やフロー。
- ④「歌詞演習 アップテンポ」メロディーに歌詞をつけてみましょう アップテンポ。
- ⑤「歌詞演習 バラード」メロディーに歌詞をつけてみましょう バラード。
- ⑥「試験課題 ミディアム」試験課題のミディアムの曲のコンセプト探し。
- ⑦「試験課題曲を試聴」同テーマで他の人はどんな歌詞を書くの確認・ディスカッションを行います。

中間試験評価方法・評価基準

学習したことが理解できているか、魅力的な作品はできているか、について評価をします。

試験結果 30%、平常点 30%、出席等 40%、

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧「作詞テクニック（8）刺さる言葉」個性的な言葉を使った歌詞を分析。
- ⑨「学生曲 作詞（1）」学生のオリジナル曲に90分で作詞 アップテンポ（1）
- ⑩「学生曲 作詞（2）」学生のオリジナル曲に90分で作詞 アップテンポ（2）オノマトペ
- ⑪「学生曲 作詞（3）」学生のオリジナル曲に90分で作詞 ミドルテンポ（1）
- ⑫「学生曲 作詞（4）」学生のオリジナル曲に90分で作詞 ミドルテンポ（2）比喩表現
- ⑬「学生曲 作詞（5）」学生のオリジナル曲に90分で作詞 スローテンポ（1）
- ⑭「学生曲 作詞（6）」学生のオリジナル曲に90分で作詞 スローテンポ（2）共感のシステム
- ⑮「総合力オリジナル曲」コンセプトに沿った歌詞作り・試聴・ディスカッションを行います。

期末試験評価方法・評価基準

総合的に教わったテクニックを習得し、印象的な作品が作れているかについて評価をします。

試験結果 30%、平常点 30%、出席等 40%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	ソングライターゼミ B
担当講師名	市川 春行
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

メジャーレーベル所属アーティスト、アイドル、声優さん達への楽曲提供、また配信による声優アイドルグループデビュープロジェクトやライブイベントプロデュース、の実務経歴があります。

授業内容

この科目では、クラスをいくつかの仮想プロダクションチームに分け、デモ音源制作に関する応用知識と経験を養います。また前学期とは違い、音楽以外の商品や企業との関連、クライアントやタイアップといった外部からの発注に沿った形のより実践的な制作シミュレーションを行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ソングライターゼミ A の時に考察した講座内容や目標のレベルを、一段階高めます。より実際の商品制作に近い形の実習を行い、将来作家として共に仕事をするであろう制作スタッフ陣への理解を深め、作曲家としての視野を拓げることも目指します。尚、履修学生が企画～制作したオムニバスアルバムをこの授業の教育成果物とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①音源制作概論、講座の目標や約束事などを説明します。また 2 年生としてより実践的で高度な目標を設定をします。
- ②基礎知識、アイドル、アーティスト、アニソンについて説明し、またそれぞれの存在意義を考察します。
- ③グループ分け、クラスを二つのプロダクションチームに分け、それぞれが音楽商品制作において競います。
- ④企画会議、制作チーム毎に半年後にリリース（完成）予定のオムニバス CD の企画を会議します。
- ⑤デモ制作 1、作家に発注するという意識で、制作スタッフ自分自身が作曲してきた制作途中の DEMO を発表します。
- ⑥デモ制作 2、前回発表時に他のメンバーから出た意見、アドバイス等を元にさらに制作を進め、発表します。
- ⑦デモ発表（TEST）、作曲の DEMO（メロディとコード進行の分かる、簡単なアレンジ

の1コーラス DEMO) 発表会です。

中間試験評価方法・評価基準

筆記テストは行わないかわりに、各自（グループ毎ではない）の作曲段階の DEMO 音源を提出、これを中間テストのかわりとします。試験 30%、平常点 40%、出席状況 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ステージイベント企画、ラクーア等野外ステージ想定、現実味があり、集客見込みのある、コラボ企画をプレゼンします。
- ⑨構成の重要性、構成の重要性、特に B メロ後半の、サビ直前のアレンジの重要性を研究します。
- ⑩CM (BGM) 制作、制作教室にて、既存 CM 映像をみながら、各人がコード進行+3 rhythm のみで、BGM を制作します。
- ⑪BGM から歌ものへ、任意に選択した前回制作物（メロディの無いトラック）に歌としてのメロディを歌詞とともに制作します。
- ⑫洋楽ディレクターの仕事、洋楽曲2曲を、2チームに分けた学生がどちらを日本デビューシングルにするかをディベートします。
- ⑬楽曲制作1、アレンジャーに発注するという意識で、制作スタッフ自分自身が制作してきた制作途中の DEMO を発表します。
- ⑭楽曲制作2、前回発表時に他のメンバーから出た意見、アドバイス等を元にさらに制作を進め、発表します。
- ⑮楽曲発表 (TEST)、フルコーラスで、アレンジ MIX まで施された楽曲の発表会です。

期末試験評価方法・評価基準

制作の実習現場における集中度、理解度、またそこに至るまで努力過程も加味するものとします。試験 30%、平常点 40%、出席状況 30%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	自作自演アーティストゼミ B
担当講師名	浅田祐介
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はアーティストとしてデビューし、さらにプロデューサーとして数多くのアーティストのヒット曲を送り出す等の実務経験を持ちます。

授業内容

複数のグループを作り実際に TuneCore などの配信サービスを利用して、楽曲を配信することを学び、その上でさらに楽曲の精度をあげていく工夫や手法も学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲クオリティーのアップ。TuneCore など各種配信アグリゲーターの運用方法についての知識を得ます。実際に配信した楽曲を成果物とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①「現代の音楽試聴研究」最新の音楽試聴の現状について学ぶ。アグリゲーションサービスについて学びます。
- ②「配信作品制作開始」配信にあたり必要な素材の調達方法、フォーマットについて学びます。また具体的な楽曲の方向性などを決めます。
- ③「楽曲制作（1）」楽曲を軸にグループごとに個別指導。楽曲の方向性を決めます。
- ④「楽曲制作（2）」楽曲を軸にグループごとに個別指導。コード・メロディーなど。
- ⑤「楽曲制作（3）」楽曲を軸にグループごとに個別指導。アレンジなど。
- ⑥「楽曲制作（4）」楽曲を軸にグループごとに個別指導。ミックス・その他最終チェックをします。
- ⑦「第1回配信」楽曲を配信しレポート提出。

中間試験評価方法・評価基準

コライティングは機能していたか、刺さる楽曲にするためのロジックは構築されていたか、また楽曲自体のクオリティーは目標に達していたか、について評価をします。

試験結果 30%、平常点 30%、出席等 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧「プロモーションの重要性」現代のアーティストのプロモーションの実態について考察します。
- ⑨「SNS」SNSのプロモーション運用について学ぶ。問題点や成功事例など。
- ⑩「配信作品制作開始」配信にあたり必要な素材の調達方法、フォーマットについて学ぶ。また具体的な楽曲の方向性などを決めます。
- ⑪「楽曲制作・プロモーション技法（1）」楽曲を軸にグループごとに個別指導します。プロモーションについての確認。（アイデア確認）
- ⑫「楽曲制作・プロモーション技法（2）」楽曲を軸にグループごとに個別指導します。プロモーションについての確認。（アイデア確認）
- ⑬「第2回配信開始」楽曲の配信のスタートと同時にプロモーションを開始します。
- ⑭「効果測定」実際にプロモーションによる効果測定をします。
- ⑮「試験」配信をやってみて感じたことについてのレポート提出。

期末試験評価方法・評価基準

楽曲のクオリティー。世の中の曲と対等に戦える曲になっているか、それだけではなく、実際にアーティスト活動をしていく上で最低限のランニングコストを得る戦略が立っているか、新しい技術やサービスについての理解は深まっているか、などについて評価をします。

試験結果 30%、平常点 30%、出席等 40%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	ハード&ソフトウェアテクニックⅢ
担当講師名	新井正俊
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲／編曲家、マニピュレーターとしてアーティストへの楽曲提供、アニメ、ゲーム、CM等の音楽制作、アプリケーション制作／販売経験を持ちます。

授業内容

DAWとは違う角度からのMIDIへのアプローチを行い、ハード&ソフトウェアの両面からのMIDI制御テクニックを身につけます。プログラミングソフトウェア「Max」または「Pure Data」を使用し、ピタゴラスイッチ感覚でプログラミングを覚え、自己の作品制作のツールとして役立てます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ラップトップ／ガジェット／マシンライブ等を行う際に使用できる自作ツールを作成しながら音楽プログラミングの基礎の習得を目標とします。尚、履修学生が制作したアプリケーションとそれを使用し演奏した作品をこの授業の教育成果物とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Max/Pure Data 概要 インストール手順と機能を解説します。
- ②オブジェクトの種類、ヘルプの使い方等の基本操作説明と四則計算の練習を行います。
- ③音を出すためのオブジェクトについて説明します。内部／外部音源を鳴らしてみます。
- ④シンプルなメトロノームを作成します。テンポ制御について説明します。
- ⑤高機能なメトロノームを作成します。拍子／音色／音量等の調節機能を追加します。
- ⑥仕上げと提出 UIのデザインを行い、アプリ化して提出します。
- ⑦中間試験：完成したアプリケーションの試奏と評価を行います。

中間試験評価方法・評価基準

PC用アプリケーション化（Max）またはスマホ用アプリケーション化（Pure Data）して作品提出を行います。

制作したツールを使ったデモンストレーションを行います。

Max/Pure Data の概念、基本機能を理解できているか提出物から評価します。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧MIDI グループマシン製作① MIDI データの入/出力と関連オブジェクトを説明します。
- ⑨MIDI グループマシン製作② テンポ/拍子/クロックの制御について説明します。
- ⑩MIDI グループマシン製作③ 演奏データ入力に使用する関連オブジェクトを説明します。
- ⑪MIDI グループマシン製作④ リズムマシン部を作成します。
- ⑫MIDI グループマシン製作⑤ ステップシーケンサー部を作成します。
- ⑬MIDI グループマシン製作⑥ CC#の説明と MIDI コントローラーを作成します。
- ⑭仕上げと提出 UI デザインと各自必要な付加機能の作成、アプリ化して提出します。
- ⑮期末試験：完成したアプリケーションの試奏と評価を行います。

期末試験評価方法・評価基準

PC 用アプリケーション化 (Max) またはスマホ用アプリケーション化 (Pure Data) して作品提出を行います。

制作したツールを使ったデモンストレーションを行います。

外部シンセサイザーを自在にコントロールできているか、提出物の完成度とパフォーマンスから評価します。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	ハード&ソフトウェアテクニックⅣ
担当講師名	新井正俊
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲／編曲家、マニピュレーターとしてアーティストへの楽曲提供、アニメ、ゲーム、CM等の音楽制作、アプリケーション制作／販売経験を持ちます。

授業内容

自作モジュールを組み合わせたモジュラーシンセの構築や独創的な楽器など、ハードウェア側からコントロールできる楽器アプリケーションを完成させ、デモンストレーションを行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自作モジュールを組み合わせたシンセの構築や独創的な楽器を製作しながら、シンセサイザーの構造を理解、また音楽プログラミングの習得を目標とします。自分で設計することで、より深くシンセサイザーの音作りを理解でき、作品の独創性につなげます。尚、履修学生が制作したアプリケーションとそれを使用し演奏した作品をこの授業の教育成果物とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ソフトシンセ製作① モノ／ポリフォニックの構造とMIDI、CV/GATEの説明をします。
- ②ソフトシンセ製作② オシレーターとアンプの説明をします。
練習でソフトウェアテルミンを作成します。
- ③ソフトシンセ製作③ フィルターの説明と実装を行います。
- ④ソフトシンセ製作④ エンベロープ&LFOの説明と実装を行います。
- ⑤ソフトシンセ製作⑤ エフェクターの説明と実装を行います。
外部MIDIコントローラーへの対応を考えます。
- ⑥仕上げと提出 UIデザイン、各自必要な付加機能を作成、アプリ化して提出します。
- ⑦中間試験：完成したアプリケーションの試奏と評価を行います。

中間試験評価方法・評価基準

PC 用アプリケーション化 (Max) またはスマホ用アプリケーション化 (Pure Data) して完成させます。

制作したツールを使ったデモンストレーションを行います。

シンセサイザーの基本構造の理解度、完成度を提出物とパフォーマンスから評価します。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

授業計画 (8 回目から 15 回目)

⑧オリジナル楽器製作① 乱数についての説明をします。練習で電子サイコロを作成し、アプリケーション化します。

⑨オリジナル楽器製作② フレーズ生成について説明します。コードやスケールを基に乱数を用いて自動作曲装置を作成します。

⑩オリジナル楽器製作③ サンプリング関連のオブジェクトについて説明します。シンプルなサンプラーを作成します。

⑪オリジナル楽器製作④ ミキサー部、各種エフェクターを作成します。

⑫オリジナル楽器製作⑤ これまで作成したパッチを組み合わせたり、新しい発想の楽器、ユーティリティーツール等のアイデアを練ります。

⑬オリジナル楽器製作⑥ UI のデザインやユニークなコントロール方法を考え、製作を開始します。

⑭仕上げと提出 各自必要な付加機能の作成とデバッグ作業を行い、アプリ化して提出します。

⑮期末試験：完成したアプリケーションの試奏と評価を行います。

期末試験評価方法・評価基準

PC 用アプリケーション化 (Max) またはスマホ用アプリケーション化 (Pure Data) して完成させます。

制作したツールを使ったデモンストレーションを行います。

楽器としての独創性 (サウンド、デザイン、コンセプト) 完成度を提出物とパフォーマンスから評価します。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	スタジオワークスⅢ
担当講師名	遠藤淳也
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

安室奈美恵、Awesome City Club、九州男、Crystal Kay、CHEMISTRY、郷ひろみ、SOUL'd OUT、DefTech、西野カナ、ポルノグラフィティ、BoA、ミオヤマザキ、ReoNa等のRecording&Mixingを手掛ける等の実務経験がある。

授業内容

音響理論、専門的な技術を使い、音楽スタジオにおいて世界的にスタンダードであるプロツールズを使用しての総合的な作品制作方法を学習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽制作の効率化と正確性を目的として、音楽スタジオに関連する様々なテクニックを身に付けます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①プロツールズについての基礎知識、基本作業の精度確認をします。
- ②オペレート作業を迅速に、正確に出来るかを解説します。
- ③音源制作に必須の、オーディオの編集の重要性を理解し、基礎技術を学びます。
- ④音源制作に特化した、イコライザーの基礎、理論、種類、を理解し、正しく効果的な使い方を学びます。
- ⑤音源制作に特化した、コンプレッサーの基礎、理論、種類、を理解し、正しく効果的な使い方を学びます。
- ⑥音源制作に特化した、リヴァーヴの基礎、理論、種類、を理解し、正しく効果的な使い方を学びます。
- ⑦クォーター末試験 音楽スタジオに関連する実技的な試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

基礎の確認、機材の正確な使用方法が確実に出来るかについて確認します。
テスト 30%、出席 40%、平常点 30%です。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧リズム楽器のサウンドメイキング
- ⑨ジャンル別リズムのサウンドメイキング
- ⑩撥弦楽器のサウンドメイキング。
- ⑪鍵盤楽器のサウンドメイキング
- ⑫クラシック楽器のサウンドメイキング
- ⑬歌、人声のサウンドメイキング
- ⑭残響、遅延、位相等の、エフェクトの基礎理論と種類を理解し、正しく効果的な使い方を学びます。
- ⑮クォーター末試験 音楽スタジオに関連する実技的な試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

音楽的な良い音を、作るための基礎と方法を理解しているかについて確認します。
テスト 30%、出席 40%、平常点 30%です。

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	スタジオワークスⅣ
担当講師名	遠藤淳也
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

安室奈美恵、Awesome City Club、九州男、Crystal Kay、CHEMISTRY、郷ひろみ、SOUL'd OUT、DefTech、西野カナ、ポルノグラフィティ、BoA、ミオヤマザキ、ReoNa等のRecording&Mixingを手掛ける等の実務経験がある。

授業内容

音響理論、専門的な技術を使い、音楽スタジオにおいて世界的にスタンダードであるプロツールズを使用しての総合的な作品制作方法を学習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽制作の効率化と正確性を目的として、音楽スタジオに関連する様々なテクニックを身に付けます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①音楽的な、切り取り、コピー、貼り付け等の波形編集の基礎と作業効率を上げる方法を学びます。
- ②歌、楽器のピッチ修正方法の基礎知識を理解し、修正用プラグインの使用法と種類を正しく把握します。
- ③歌、楽器のタイミング修正方法の基礎知識を理解し、波形編集と修正用プラグインの使用法を正しく把握します。
- ④マルチデータの良い部分を抜粋して、波形編集でOKテイクを作成する、効率的な方法を学びます。
- ⑤異なるテンポ、キーの楽曲を調整して1曲に編集する方法と、必要なプラグインの使用法を学びます。
- ⑥今まで学んだ編集テクニックを同時に進行させるために、ショートカットや高度な操作

方法を学びます。

⑦クォーター末試験 音楽スタジオに関連する実技的な試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

基礎の確認、機材の正確な使用方法が確実に出来るかについて確認します。
テスト 30%、出席 40%、平常点 30%です。

授業計画 (8回目から15回目)

⑧MIX の概念、基礎を確認し、正しい手順を学びます。

⑨MIX 作業を開始する前の初期設定、前準備の大切さを認識し、自分に合ったプリセットを考えます。

⑩音量、音質、定位、特殊効果等の MIX に不可欠のオートメーションの概念、基礎、使用方法を学びます。

⑪歌やギター、ピアノ等、デモ作りに必要な音源の録音技術の基礎を学びます。

⑫プロの MIX テクニックを楽器別に具体的解説、解析をします。

⑬プロの MIX テクニックをジャンル別に具体的解説、解析をし、自分の作品と比較して学びます。

⑭マスタリングの概念と基礎テクニック、プラグインの使用法と種類を理解し、楽曲のグレードアップの方法を学びます。

⑮クォーター末試験 オリジナル作品の提出です。

期末試験評価方法・評価基準

1年間に学習したことが総合的に作品に反映されているかについての確認と評価をします。

テスト 30%、出席 40%、平常点 30%です。

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	スタイル別作曲技法 B I (歌モノ)
担当講師名	市川 春行
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

メジャーレーベル所属アーティスト、アイドル、声優さん達への楽曲提供、また配信による声優アイドルグループデビュープロジェクトやライブイベントプロデュース、の実務経歴があります。

授業内容

この科目では、講師の実務経歴（声優アイドルグループプロデュース、J-pop 楽曲提供コンペ作家）に基づく、DJやサントラといったインスト系楽曲をメインに学ぶ学生を主に対象とした、歌もの POPS 制作講座です。毎回シンプルなテーマの制作実習をこなすことにより、歌もの POPS への理解を深めます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

「人の声」による表現をまず研究し、その特徴と制約を知ったうえで、歌もの POPS の基本的な制作知識とノウハウを体得します。それらは毎回モチーフという形で、学生各人により音楽 DATA として制作され、学生各人のスキルとなることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①授業の目標の提示、一年後の目標と、そこへ至る過程を、皆と確認します。
- ②マリの POPS、どこの国にも POPS は存在します。ここでは、マリ共和国の POPS をイメージし、制作を楽しみましょう。
- ③ビートの話、歌の伴奏としてのリズムアレンジの考え方や、POPS としての「わかりやすい」ビートの解説をします。
- ④4 CHORDS について1、まず手始めに、J-pop よりもシンプルな洋楽 POPS を制作してみましょう。4 CHORDS ループの制作実習をします。
- ⑤4 CHORDS について2、前週制作した4 CHORDS のコードループに、アレンジとメロディメイクによって、A メロ-サビ形式に発展させましょう。

- ⑥ 4 CHORDS の POPS1、制作した 4 CHORDS の A とサビの間に 2～8 小節の別のコード進行セクションを挿入し、より A とサビを差別化しましょう。
- ⑦ 4 CHORDS の POPS2、前週制作した 4 CHORD を軸とした洋楽的 POPS を仕上げて、提出します。試験となります。

中間試験評価方法・評価基準

授業内で提出された作品を発表し、評価します。また、クラスの皆にもそれぞれコメントをしてもらいます。平常点 40% 提出物 30% T E S T 30%

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧ 定番コード進行 1、J-pop に多いコード進行として、4-5-3-6 進行を紹介し、またそれを使用したモチーフを制作実習します。
- ⑨ 定番コード進行 2、J-pop に多いコード進行として、カノン進行を紹介し、またそれを使用したモチーフを制作実習します。
- ⑩ 定番コード進行 3、J-pop に多いコード進行として、小室進行を紹介し、またそれを使用したモチーフを制作実習します。
- ⑪ 定番コード進行番外編 1、FM7 から順次下降し、CM7 に落ちるとい、いわゆる Loving You 進行を紹介し、またそれを使用したモチーフを制作実習します。
- ⑫ 定番コード進行番外編 2、循環コード (強進行) にみえて、実は弱進行という、FM7-E7-Am7-C7 を紹介し、またそれを使用したモチーフを制作実習します。
- ⑬ J-pop 制作 1、これから 3 回はオケ先という手法に焦点を当て、基本的な J-POP フォーマットのオケの制作実習を行います。
- ⑭ J-pop 制作 2、イントロ-A メロ-B メロ-サビ-サビ (ダッシュ) の 3rhythm オケトラックの制作実習をします。
- ⑮ J-pop 制作 3、提出された J-pop トラックの中から任意に 2、3 ケを指定し、各人がメロディを考え、入力し、提出します。試験となります。

期末試験評価方法・評価基準

授業内で提出された作品を発表し、評価します。また、クラスの皆にもそれぞれコメントをしてもらいます。平常点 40% 提出物 30% T E S T 30%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	スタイル別作曲技法 BII (歌モノ)
担当講師名	市川 春行
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

メジャーレーベル所属アーティスト、アイドル、声優さん達への楽曲提供、また配信による声優アイドルグループデビュープロジェクトやライブイベントプロデュース、の実務経歴があります。

授業内容

前期で学んだ知識やテクニックを再確認し、更に一步踏み込んだ歌もの **POPS** 制作を目指します。**J-pop** というものに特化し、研究し、最終クォータでは、実際にコンペに提出するような形での **J-pop** デモ楽曲の制作実習を行います。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

春学期に学んだ、歌もの **POPS** の基本的な制作知識とノウハウに加え、**J-pop** に特化した様々な知識を学び、「実際のコンペに対応でき得るレベルの **J-pop** 楽曲デモ」の制作も行えるようになることを目指します。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①ダイアトニック進行以外のアイデア 1、コード進行ではなく、トライアドを使用したコードリフの制作を紹介します。
- ②ダイアトニック進行以外のアイデア 2、マイナークリシェ、**SUS4** 的ドミナントモーション時の使用等、分数コードの種類と使用法の解説です。
- ③ダイアトニック進行以外のアイデア 3、分数コードについて、ここでは代表的な分数コードを使用した進行を紹介し、制作実習をします。
- ④ダイアトニック進行以外のアイデア 4、ダイアトニック進行にとらわれないアイデアとして、メジャーコードの「クリシェ」を紹介します。
- ⑤洋楽の **J-pop** 化 基礎知識、**J-pop** の特徴である、**B** メロおよびサビ (ダッシュ) について詳しく解説します。

⑥洋楽の J-pop 化 (B メロ付加) 既存の洋楽に、B メロおよびサビ (ダッシュ) を新たに作成、付加し、J-pop 化させます。

⑦洋楽の J-pop 化 提出 既存の洋楽を J-pop 化し、完成させて、提出します。Q 末試験となります。

中間試験評価方法・評価基準

授業内で提出された作品を発表し、評価します。また、クラスの皆にもそれぞれコメントをしてをもらいます。平常点 40%提出物 30% T E S T 30%

授業計画 (8 回目から 15 回目)

⑧コード一発もの、ダイアトニック進行を使わない、「コード一発もの」、という切り口を考察します。

⑨BLUES について、POPS では少ない、BLUES 形式のヒット POPS を紹介、考察します。

⑩J-POP デモ制作、ベーシック 1、指定した構成とコード進行に、テンポ、ビート、ジャンル感を付加し、コンペ対応レベルの J-POP 制作です。

⑪J-POP デモ制作、ベーシック 2、先週に引き続き、オリジナル J-pop の制作実習をし、完成形を皆で聞きあいます。

⑫J-POP デモ制作 サビの転調 1、サビと AB メロのキーを変える、いわゆる小室転調を、Demo に施します。

⑬J-POP デモ制作 サビの転調 2、前回から作業している、転調の DATA を完成させます。また発表会をし、皆でお互いの DATA を確認します。

⑭J-POP デモ制作 仕上げ、上ものアレンジ、イントロの作成、歌詞 (1 番のみ) の作成をして、完成させます。

⑮J-POP デモ制作&提出、仕上げを終えた、J-POP デモを、Wav (デモ音源) と Text (歌詞) で提出し、Test とします。

期末試験評価方法・評価基準

授業内で提出された作品を発表し、評価します。また、クラスの皆にもそれぞれコメントをしてをもらいます。平常点 40%提出物 30% T E S T 30%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	スタイル別作曲技法 B I (劇伴)
担当講師名	大久保賢
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は DTM を用いたオーケストラ作品を主にエンタテインメント業界に提供している実務経験を持ちます。

授業内容

様々な種類の映像に対してどのようなアプローチで音楽を作成していくかを具体的に解説し、応用できるようにします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

配布した映像の意図を読み取り、それに対応する楽曲が制作できるような技術の習得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①チェロとピアノを中心に、編曲について解説。
- ②映像課題を配布し、音楽を作成します。
- ③作品発表会の実施。作品に添削を行います。
- ④躍動感のあるアレンジ。弦の使い方を中心に、編曲について解説。
- ⑤ホラー系音楽の作編曲について解説します。
- ⑥試験課題を配布し、音楽を作成します。
- ⑦作品発表会の実施。作品に添削を行います。

中間試験評価方法・評価基準

作品提出をおこないます。
映像の意図を読み取り、それに対応する楽曲が制作できているかを確認。
課題提出：40% 出席点：30% その他：30%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Jazz について解説を行う。
- ⑨映像課題を配布し、音楽を作成します。
- ⑩作品発表会の実施。作品に添削を行います。
- ⑪明るいアニメ系の BGM について解説します。
- ⑫映像課題を配布し、音楽を作成します。
- ⑬作品発表会の実施。作品に添削を行います。
- ⑭シリアス系 BGM のアレンジについて解説します。試験課題を配布。
- ⑮作品発表会の実施。作品に添削を行います。

期末試験評価方法・評価基準

作品提出をおこないます。

映像の意図を読み取り、それに対応する楽曲が制作できているかを確認。

課題提出：40% 出席点：30% その他：30%。

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	スタイル別作曲技法 B I I (劇伴)
担当講師名	大久保賢
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は DTM を用いたオーケストラ作品を主にエンタテインメント業界に提供している実務経歴を持ちます。

授業内容

様々な種類の映像に対してどのようなアプローチで音楽を作成していくかを具体的に解説し、応用できるようにします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

配布した映像の意図を読み取り、それに対応する楽曲が制作できるような技術の習得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ピアノと木管楽器を中心に、編曲について解説。
- ②映像課題を配布し、音楽を作成します。
- ③作品発表会の実施。作品の添削を行います。
- ④ギターアレンジについて解説。
- ⑤映像課題を配布し、音楽を作成します。
- ⑥試験課題の制作を行います。
- ⑦作品発表会の実施。作品の添削を行います。

中間試験評価方法・評価基準

作品提出をおこないます。
映像の意図を読み取り、それに対応する楽曲が制作できているかを確認。
課題提出：40% 出席点：30% その他：30%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧和の雰囲気音楽について解説。
- ⑨映像課題を配布し、音楽を作成します。
- ⑩作品発表会の実施。作品の添削を行います。
- ⑪不思議な雰囲気BGMについて解説。
- ⑫映像課題を配布し、音楽を作成します。
- ⑬Brass編成の編曲について解説。
- ⑭映像課題を配布し、音楽を作成します。
- ⑮作品発表会の実施。作品の添削を行います。

期末試験評価方法・評価基準

作品提出をおこないます。

映像の意図を読み取り、それに対応する楽曲が制作できているかを確認。

課題提出：40% 出席点：30% その他：30%。

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	DJ・クラブミュージックゼミ B
担当講師名	高木則幸
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はクラブイベントでの DJ 経験や、海外クラブミュージック専門レーベルからの楽曲リリース経験等の実務経験を持ちます。

授業内容

現代においては DJ スタイルも、単にレコードや CD をプレイするにとどまらず、PC を使ったライブパフォーマンス等様々です。この科目では講師の実務経験（クラブ DJ、プロデューサー）に基づき、オリジナル楽曲、アルバムを制作する事に加えて、オリジナル曲をライブ発表することで実践的なクラブイベントでのパフォーマンスを実践します。楽興制作は個人またはグループ（ユニット）で行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

商品レベルでのクラブミュージック楽曲を制作、完成させます。オリジナル楽曲をライブ用にアレンジして、ライブイベントを企画、開催し、ライブパフォーマンスとして発表します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①スケジュールの確認と制作グループを決定します。
- ②サウンドの核となる音色をしっかりと作り込みます。
- ③DJプレイ、ライブパフォーマンスを考えた曲構成を考えます。
- ④細部の作り込みとエフェクトを追加します。
- ⑤ミックスダウンを行います。
- ⑥トータルコンプと音圧補正を行いマスタリングします。
- ⑦パフォーマンス企画と完成楽曲を発表します。

中間試験評価方法・評価基準

オリジナル曲を制作、提出します。

出席 30%、企画への参加姿勢 30%、作品のクオリティ 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧制作スケジュールを確認して計画を立てます。
- ⑨ライブパフォーマンスを念頭に置いた楽曲を制作します。
- ⑩制作経過を発表します。（前半）
- ⑪制作経過を発表します。（後半）
- ⑫アルバム制作とマスタリングを行います。
- ⑬ライブイベントの企画を練って、リハーサルを行います。
- ⑭実際のステージを想定したリハーサル（ゲネプロ）を行います。
- ⑮ライブイベントを開催、作品を発表します。

期末試験評価方法・評価基準

全員のオリジナル曲を収録したアルバムの制作と、ライブイベントを行います。

出席 30%、企画への参加姿勢 30%、作品のクオリティ 40%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	オーケストレーション（管弦楽法）Ⅲ
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は映画のオーケストレーターを務める等、実務経験を持ちます。

授業内容

年間を通してオーケストラ曲を書くに当たって必要な楽器法・編曲法を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

春学期は管楽器の書法を主に、オーケストラの指揮についても触れ、自作曲を自身の指揮で演奏する事を目指します。

<成果物>

1Qはサクスカルテットを制作し、試演を行います。

2Qはホルンアンサンブルとピアノを含む duo 曲を制作し、ピアノの試演を行います。

授業計画（1回目から7回目）

- ①サクスについて / 楽器の成り立ちと管による移調の違い
- ②4重奏(4声)のアレンジ / 4way close を実習
- ③4重奏アレンジの分析 / 既存曲を分析
- ④指揮実習(1)/指揮についての基本事項
- ⑤サクスカルテット用スコア提出
- ⑥サクスカルテット用パート譜提出
- ⑦サクスカルテット試演

中間試験評価方法・評価基準

試験 50%

出席 30%

その他 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ホルンについて / ホルンの5度の実習
- ⑨ホルン4重奏 / 同じ楽器のアンサンブルの書法
- ⑩楽語について / スコアリングに必要な楽語
- ⑪カウンターライン・カウンターメロディ
- ⑫指揮実習(2) / 変拍子について
- ⑬ピアノ試演用スコア提出
- ⑭ピアノ試演用音源(オケ)提出
- ⑮鍵盤楽器試演

期末試験評価方法・評価基準

提出曲 60%
出席 30%
その他 10%

※夏休み課題→年度末試演曲のメロ譜提出

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	オーケストレーション（管弦楽法）Ⅳ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は映画のオーケストレーターを務める等、実務経験を持ちます。

授業内容

年間を通してオーケストラ曲を書くに当たって必要な楽器法・編曲法を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

秋学期は弦楽器の書法を主に、オーケストラの指揮についても触れ、自作曲を自身の指揮で演奏する事を目指します。

テーマ・内容は各授業で行う主な項目であり、オーケストラの書法の試聴・分析・実習は常に進めていきます。

〈成果物〉

3Qは弦楽四重奏を制作し、試演を行います。

4Qは小オーケストラを制作し、試演を行います。

授業計画（1回目から7回目）

- ①弦楽器について / Violon 属 & ハープ
- ②4重奏アレンジの分析
- ③オーケストラの中の弦楽器 / 既存曲を分析
- ④指揮実習(3)/指揮についての基本事項
- ⑤オーケストラの tutti の書法
- ⑥弦楽四重奏用スコア・パート譜提出
- ⑦弦楽四重奏試演

中間試験評価方法・評価基準

試験 50%

出席 30%

その他 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧夏休み課題で作成したメロ譜から編成表を作成
- ⑨コンデンススコアの作成
- ⑩オーケストラで使用する楽器と年度末試演の編成について
- ⑪個別スコアチェック(1)
- ⑫オーケストラで使用する打楽器について
- ⑬個別スコアチェック(2)
- ⑭小オーケストラ試演用スコア提出
- ⑮試演曲の音源に合わせて指揮実習

期末試験評価方法・評価基準

提出曲 60%
出席 30%
その他 10%

※冬休み課題→楽器名の各国表記を覚える

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	クラシック作曲理論Ⅲ
担当講師名	岩田 学
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

クラシック系作品の作・編曲家としての活動。

授業内容

和声法を通してクラシック系作曲の理論を学習します。V9の和音やII7の和音、準固有和音、属調のV7の和音に関して正しい使い方を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

和声学を中心にクラシック系音楽の理論を学習し、楽曲分析や自己の作品制作に生かせるスキルを身に付けます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 長調V9（根音省略形を含む）の最適配置や定型、限定進行音等を学習します。
- ② 長調V9（根音省略形を含む）の補充的課題を実施し、理解度をチェックします。
- ③ 短調V9（根音省略形を含む）の配置上の注意、限定進行音の例外的進行等を学習します。
- ④ 短調V9（根音省略形を含む）の補充的課題を実施し、理解度をチェックします。
- ⑤ ドミナント系和音の和声課題を実施し、適切な和音設定が出来ているかチェックします。
- ⑥ ドミナント系和音の補充的課題を実施し、理解度をチェックします。
- ⑦ ドミナント系和音の総括、課題を実施し理解度をチェックします。

中間試験評価方法・評価基準

ドミナント系和音の総括としてバス課題を実施します。まず和音設定が適切かどうか、更に最適配置や限定進行音に関して正しく理解されているかなどを評価します。課題 60%
出席 30% その他 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ II7 の和音の基本的な使い方、第 7 音の進行を学習します。
- ⑨ II7 の和声課題を実施し、理解度をチェックします。
- ⑩ 準固有和音の考え方と和音進行上の注意、更に対斜に関する知識を学びます。
- ⑪ 準固有和音の和声課題を実施し、理解度をチェックします。
- ⑫ 属調の V7 の基本的な考え方を説明し、属調の V7 の正しい使い方を学びます。
- ⑬ 属調の V7 を使用するうえで注意すべき限定進行音や対斜の処理について学習します。
- ⑭ 属調の V7 の和声課題を実施し、理解度をチェックします。
- ⑮ II7 の和音と準固有和音を含む課題を実施し理解度をチェックします。

期末試験評価方法・評価基準

II7 の和音と準固有和音和音及び属調の V7 を含むバス課題を実施します。それぞれの和音の和音設定や限定進行音を正しく理解しているかを評価します。課題 60% 出席 30% その他 10%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	クラシック作曲理論Ⅳ
担当講師名	岩田 学
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

クラシック系作品の作・編曲家としての活動。

授業内容

和声法を通してクラシック音楽の理論を学習します。秋学期では属調のV系の和音やその他のサブドミナント系の和音の適切な使い方と近親調転調の仕組みを理解します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

秋学期は様々なサブドミナント系の和音を学習し、更に近親調転調の理解を深めることで、オリジナル作品の表現の幅を広げるとともに、楽曲分析能力を高めます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 属調のV9（根音省略形を含む）の和音の定型や限定進行音に関して学習します。
- ② 属調のV9（根音省略形を含む）の和音を含む和声課題を実施し、理解度をチェックします。
- ③ 属調のV9（根音省略形/下方変位を含む）の和音を含む和声課題を実施し、理解度をチェックします。
- ④ 属調のVの諸和音を使っている楽曲を分析し、和音の実践的な使い方を学習します。
- ⑤ IV7、+IV7、-IIの基本的な説明、最適配置や定型、限定進行音等を学習します。
- ⑥ IV7、+IV7、-IIを使う上で、一般的な和音連結に加え例外的な進行を学習します。
- ⑦ 属調のVの諸和音を含む課題を実施し理解度をチェックします。

中間試験評価方法・評価基準

属調のVの諸和音を含むバス課題を実施します。定型や和音設定が適切かどうか、更に限定進行音や対斜に関して正しく理解されているかを評価します。課題 60% 出席 30% その他 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ IV7、+IV7、-IIの和声課題を実施し、理解度をチェックします。
- ⑨ 様々なサブドミナント系和音の和声課題、サブドミナント系和音の適切な和音設定を学習します。
- ⑩ 様々なサブドミナント系和音を使用している楽曲を分析し、サブドミナント系和音の実践的な使い方を学習します。
- ⑪ 近親調転調の基本的なルールに関して学習します。
- ⑫ 近親調転調の際の終止の種類や調の判別について学習します。
- ⑬ 近親調転調をしている和声課題を実施し、理解度をチェックします。
- ⑭ 近親調転調をしている楽曲を分析し、実践的な転調の仕方について学習します。
- ⑮ サブドミナント系和音と近親調転調の総括、サブドミナント系和音と近親調転調の理解度をチェックします。

期末試験評価方法・評価基準

サブドミナント系和音の総括と近親調転調に関するバス課題を実施します。調設定・和音設定が適切かどうか、更に限定進行音や対斜に関して正しく理解されているかなどを評価します。課題 60% 出席 30% その他 10%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	オーケストラ DTM・DAW III
担当講師名	三堀尚和
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲、レコーディングエンジニア、シンセサイザープログラマーとしての実務経験をもちます。

授業内容

ソフトウェアを利用した音楽制作の様々な操作を習得する科目です。第1クォーターでは MIDI データにおける GM と CC の詳細、楽曲分析や編曲に役立つテンポに関する操作を学びます。第2クォーターでは Cubase のスコア機能を使用した楽譜作成を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

現在日本で最も使用者の多い Cubase を中心に、各種の機能をより深く効率的に扱うためのテクニックを習得します。卒業後も必要とされる様々なケースを想定し、DAW を扱う作編曲家としてより高度な要求に対応できるスキルを習得する事を目的とします。なお、各種の課題で作成した作品が成果物となります。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス～MIDI の詳細：授業内容と進め方、評価方法について説明します。また初回は Cubase における GM と CC の詳細について解説します。
- ②Standard MIDI File の詳細：SMF フォーマットの解説と操作法、トラックインポートを利用したアレンジに利用するテクニックについて解説します。
- ③テンポマップ - Audio(1)：テンポが一定ではないオーディオ素材のテンポ解析と編集について解説します。これにより、自由なテンポ編集が可能になります。
- ④テンポマップ - Audio(2)：テンポが一定ではないオーディオ素材のテンポ解析を実際に行います。これは今後、非常に役立つテクニックとなります。
- ⑤テンポマップ - MIDI(1)：自由なテンポで入力された MIDI データの処理について解説します。これにより、テンポ変化のある曲でも小節管理が可能になります。

⑥テンポマップ - MIDI (2) : 自由なテンポで入力された MIDI データの処理を実際に行います。これは今後、非常に役立つテクニックとなります。

⑦クォーター末試験 : 理解度を確認するため、第 3~6 回の 2 課題の提出をもって実技試験とします。

中間試験評価方法・評価基準

試験の点数(30%)、平常点(20%)、出席数(50%)、トータル 100%。減点方式を基本とし、遅刻は欠席同等の減点となります。積極性を重要視します。

授業計画 (8回目から 15回目)

⑧楽譜作成 1 : スコア機能のレイアウトと声部について解説します。これにより一段譜や大譜表のパート譜の作成が可能になります。

⑨楽譜作成 2 : スコア機能の歌詞の入力方法について解説します。これにより歌詞を含んだメロ譜の作成が可能になります。

⑩楽譜作成 3 : スコア機能のコード表記と楽語テキスト、フォントについて解説します。これによりコード表記や楽語を含んだ楽譜の作成が可能になります。

⑪楽譜作成 4 : スコア機能のオーケストラスコア(総譜)について解説します。これにより、フルスコアの作成が可能になります。

⑫楽譜作成 5 : フルスコアの作成は大変作業時間を要します。学期末課題について夏休みの宿題とする旨の説明を行います。

⑬MIDI データの譜面化(1) : 実際に課題曲から楽譜作成を目的とした作業を行います。可能な限り個別対応します。

⑭MIDI データの譜面化(2) : 実際に課題曲から楽譜作成を目的とした作業を行います。また PDF 化する方法も解説します。可能な限り個別対応します。

⑮学期末課題 : 理解度を確認するため、楽譜作成課題の提出をもって実技試験とします。

期末試験評価方法・評価基準

試験の点数(30%)、平常点(20%)、出席数(50%)、トータル 100%。減点方式を基本とし、遅刻は欠席同等の減点となります。積極性を重要視します。

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	オーケストラ DTM・DAW IV
担当講師名	三堀尚和
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲、レコーディングエンジニア、シンセサイザープログラマーとしての実務経験をもちます。

授業内容

ソフトウェアを利用した音楽制作の様々な操作を習得する授業です。第3クォーターでは映像課題の制作を行いながら代表的な音源の使用法を解説します。第4クォーターでは課題制作を行いながら、各テーマ以外にも今後必要と思われる様々な知識やトラブルの対処法などを解説します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

普及率の高い DAW である Cubase を中心に、各種の機能をより深く効率的に扱うためのテクニックを習得します。卒業後も必要とされると思われる様々なケースを想定し、DAW を扱う作編曲家としてより高度な要求に対応できるスキルを習得する事を目的とします。なお、制作課題の楽曲作品が成果物となります。

授業計画（1回目から7回目）

- ①映像用楽曲制作課題：3Q 末試験の内容について解説します。課題を先に発表することで就職活動、その他の影響を抑える目的があります。
- ②専用音源の使用：各楽器ごとの特化型音源について、またデファクトスタンダードとされる Native Instruments 社の Kontakt について解説します。
- ③リズム系音源：Cubase 付属の Groove Agent を使用してループ素材からオリジナルのドラムキットとパターンの編集方法を解説します。
- ④VST エクスプレッションマップ：Cubase の機能である VST エクスプレッションマップを使用したキースイッチの効率的な入力法について解説します。

⑤映像用楽曲制作課題：先に発表した映像用楽曲制作課題の仕上げを行います。可能な限り個別対応します。

⑥クォーター末試験（前半）：課題曲の発表と提出をもって実技試験とします(前半)。内容は発表人数により適宜に調整します。

⑦クォーター末試験（後半）：課題曲の発表と提出をもって実技試験とします(後半)。内容は発表人数により適宜に調整します。

中間試験評価方法・評価基準

試験の点数(30%)、平常点(20%)、出席数(50%)、トータル100%。減点方式を基本とし、遅刻は欠席同等の減点となります。積極性を重要視します。

授業計画（8回目から15回目）

⑧映像用楽曲制作課題1：4Q末試験の内容について解説します。個人の進路に合わせて方向性の異なる2つの課題から選択できます。

⑨映像用楽曲制作課題2：用意された2つの課題の詳細な解説をします。完成とする許容範囲を広く設定し、様々な表現法も積極的に受け入れます。

⑩映像用楽曲制作課題3：実際の制作作業を行いながら毎回様々なTipsを紹介します。また可能な限り個別対応します。(例:オリジナルライブラリについて)

⑪映像用楽曲制作課題4：実際の制作作業を行いながら毎回様々なTipsを紹介します。また可能な限り個別対応します。(例:フリープラグインの考察など)

⑫映像用楽曲制作課題5：実際の制作作業を行いながら毎回様々なTipsを紹介します。また可能な限り個別対応します。(例:最新プラグインの考察など)

⑬映像用楽曲制作課題6：先に発表した映像用楽曲制作課題の仕上げを行います。可能な限り個別対応します。

⑭学期末実技試験（前半）：課題の作品発表と提出をもって実技試験とします(前半)。内容は発表人数により適宜に調整します。

⑮学期末実技試験（後半）：課題の作品発表と提出をもって実技試験とします(後半)。内容は発表人数により適宜に調整します。

期末試験評価方法・評価基準

試験の点数(30%)、平常点(20%)、出席数(50%)、トータル100%。減点方式を基本とし、遅刻は欠席同等の減点となります。積極性を重要視します。

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	スクリーンミュージックゼミ B
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は映画の音楽監督、オーケストレイター、番組の音楽担当等、実務経験を持ちます。

授業内容

映像音楽を様々な角度から学習します。
実写/アニメ/映画トレーラー/CM等の映像にSE/BGM/台詞等の音付けを行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

前年度秋学期の学習項目を踏まえ、制作スピードの向上を目指します。
グループ制作では、スケジュール管理など、コミュニケーションを重視し、より良い作品制作を目指します。

<成果物>

前半は依頼条件に合わせた音源や映像を制作します。
後半はグループでコンセプトを設定し作品制作を行います。

授業計画（1回目から7回目）

- ①実写動画に必要なSE素材を生で再構築する為にrec.と編集を行います。
- ②1週目に録った素材を用いて現場音を完成させます。
- ③1,2週で扱った映像にBGMを付けます。
- ④BGMとSE(現場音)のバランスを取り動画を提出します。
- ⑤各自、得意と不得意を自己分析の中で認識します。
- ⑥グループ別に互いに課題を提示します。
- ⑦指定された映像にBGM/SEを付け動画で提出。

中間試験評価方法・評価基準

試験 50%
出席 30%
その他 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧SE と BGM に分かれて作業を進めます。
- ⑨素材を合わせて動画に書き出します。
- ⑩スクリーンミュージックゼミの CM を制作します。
- ⑪役割を決め各々の作業を行います。
- ⑫完成した CM を発表します。
- ⑬各々の音付けのアピールが出来る映像素材を探します。
- ⑭途中経過を発表し、意見を出し合います。
- ⑮自身で設定した動画に音を付け発表します。

期末試験評価方法・評価基準

試験 50%
出席 30%
その他 20%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	ゲーム・アニメミュージックゼミ B
担当講師名	斉藤かんじ
学期	春学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はゲーム BGM, アニメ劇伴曲、歌楽曲、CM 曲などに実務経験があります。

授業内容

2 年次春学期から始まる授業です。1 年次から継続して BGM 制作と音響制作の 2 本立てで学んでいきます。とくに日頃あいまいになりがちな音響用語や各プラグインのパラメーターの意味を確かなものにしていきます。さらにそれらの集大成としてひとつのコンセプトの下、全員の作品が収録された企画・制作物を作ります。何を作るかは学生諸君が決めますが、例年では配信アルバムの制作販売、youtube チャンネルの設立と映像音楽作品の公開などがされています。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

就職活動、業界へのプレゼンテーション資料のひとつとして各々が自信を持って提示出来る楽曲を作ることがまずひとつの目標です。さらに音響制作の現場で即戦力として活躍できるように必要とされるであろう確かな知識、技術の習得を目標とします。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①音響用語、音の三要素、周波数、位相、音圧、サンプリングレート、ビットデプスなどについて
- ②コンプレッサー、リミッターのパラメーターについて、さらになぜそれらが必要とされるかについて
- ③イコライザーのパラメーターについて、さらになぜそれらが必要とされるかについて
- ④シンセサイザーのパラメーターについて
- ⑤SE, ME の作り方について
- ⑥制作課題 1 設定されたゲーム上の画面に対しての BGM (SE 付き) 制作課題の制作と発表
- ⑦制作課題 2 設定されたシナリオ (文章) に対しての音楽の制作と発表

中間試験評価方法・評価基準

出席 30% 平常点 30% 試験 40% 試験については課題楽曲の完成度、クオリティを評価の対象とします。平常点は授業時、勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧制作物の企画のコンセプト、担当楽曲、制作スケジュール等の会議
- ⑨デモテイクの提出 楽曲の方向性、モチーフ、構成、楽器編成などの提示
- ⑩リテイクの提出 完成に向けた計画性、期待感の提示
- ⑪制作物に必要なデザイン、文字資料について
- ⑫制作物に利用できる映像素材の収集と編集
- ⑬学生間でのスキル共有、積極的な情報交換の場として
- ⑭完成稿の提出と発表。それらのマスタリング作業
- ⑮制作物の完成と作品のアップロード

期末試験評価方法・評価基準

制作物の完成を以って試験とし、提供楽曲のクオリティと企画制作への貢献度を評価の対象とします。出席 30% 平常点 30% 試験 40% 平常点は授業時、勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	デビュー・就職講座Ⅰ・Ⅱ
担当講師名	稲見英夫
学期	集中（春・秋）
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はこの科目の内容に関連する実務経験（TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、マネージャーとしての活動）を持っております。

授業内容

ヴォーカリストとして、バンドとして、アーティストとして、音楽クリエイターやプロデューサーとしてデビューすることや自主的な専門活動を行うこと、または就職や進学を目指す卒業年次生が必要な知識を身に付けて希望進路の実現をサポートするための授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

デビュー、専門活動、就職、進学に関しての曖昧な情報や噂だけに基づいて行動すると進路実現が達成できません。この講座を受講することによって正確な情報を得て、的確な行動を行い、進路実現を達成できることを目標とします。春学期では全員が「プロフィール」と「デモ音源」を制作し、秋学期では自分の希望進路に基づいた就業活動内容のレポートを制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 進路についての考察を行い、進路の選択肢をしっかりと把握したうえで、自分の進路を決めるために注意すべきことを理解します。
- ② 専門活動・就職・進学について、それぞれの具体的な内容を把握します。
- ③ 安易にフリーターになってしまうと生じる中長期的な危険性と、フリーターを選択する場合の諸条件について理解します。
- ④ 音楽家は具体的にどのような手段で収入を得ているのかを把握します。
- ⑤ 音楽家としての能力や技術以外にも必要とされる事柄について把握します。
- ⑥ 音楽家になるために必要な基本ツールとしてのプロフィールとデモ音源の作成方法を学習します。
- ⑦ 自分の魅力を最大限に引き出せるデモ音源とプロフィールを作成し、提出します。

中間試験評価方法・評価基準

制作した「デモ音源」と「プロフィール」を提出。主にその体裁に対しての評価をします。（100%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 就職講座（1）アルバイトと就職における金銭面や待遇面等の違いについて
- ⑨ 就職講座（2）自分に合った職種の探し方
- ⑩ 就職講座（3）エントリーシートと履歴書の書き方と要点
- ⑪ 就職講座（4）面接対策
- ⑫ 就職講座（5）求人紹介と応募のすすめ（前編）
- ⑬ 就職講座（6）求人紹介と応募のすすめ（後編）
- ⑭ キャリアカウンセリングを用いた進路情報収集や進路相談等の活用方法について把握します。
- ⑮ 自分の希望進路に基づいた就業活動内容のレポートを制作し、提出します。

期末試験評価方法・評価基準

専門活動、就職、進学の中から希望の進路を1つ選択し、その就業活動実績に基づいた内容のレポートを提出。主にその内容と体裁に対しての評価をします。（100%）

特記事項

集中講座

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	ツァイ・ペイルン
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

尚、講師は音楽留学のカウンセリング、大学受験英語対策等の実務経験がある経験豊富なプロフェッショナルです。

授業内容

英語による日常的な言語活動（聴く・話す・読む・書く）が行えるよう、自然かつ流暢に英会話ができるようにする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自信を持って英語で会話できるようになるスキルを身につける。そのために必要な語彙と文法の習得及び、様々な内容のテキスト（グループディスカッション）の使用により、英語コミュニケーション能力をも養成する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①挨拶、自己紹介
- ②楽器紹介Ⅰ
- ③楽器紹介Ⅱ
- ④どんな音楽が好きですか？
- ⑤作曲家&作詞家紹介
- ⑥期中復習
- ⑦期中試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧音楽用語
- ⑨海外旅行Ⅰ
- ⑩海外旅行Ⅱ
- ⑪発表会 スピーチⅠ
- ⑫発表会 スピーチⅡ
- ⑬音楽祭紹介Ⅰ
- ⑭期末復習
- ⑮期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

特記事項

教材・参考書：担当教員より指示される。辞書は必ず持参すること。

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	ツァイ・ペイルン
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

尚、講師は音楽留学のカウンセリング、大学受験英語対策等の実務経験がある経験豊富なプロフェッショナルです。

授業内容

英語による日常的な言語活動（聴く・話す・読む・書く）が行えるよう、自然かつ流暢に英会話ができるようにする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自信を持って英語で会話できるようになるスキルを身につける。そのために必要な語彙と文法の習得及び、様々な内容のテキスト（グループディスカッション）の使用により、英語コミュニケーション能力をも養成する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①日常英会話（学校）
- ②将来の計画
- ③音楽の履歴を書く
- ④音楽のプロフィールを書
- ⑤リハーサル演奏技法
- ⑥期中復習
- ⑦期中試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧面接 (大学)
- ⑨面接 (仕事)
- ⑩演奏会感想
- ⑪コンサート紹介 I
- ⑫コンサート紹介 II
- ⑬マスタークラス
- ⑭期末復習
- ⑮期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

特記事項

教材・参考書：担当教員より指示される。辞書は必ず持参すること。

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	岩橋 宣輔
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はヨーロッパにて15年間の在住経験を持ち、株式会社テレビ朝日での映像翻訳の実務経験、ならびにキングレコード株式会社での英仏独文翻訳およびライナーノート執筆の実務経験を持ちます。

授業内容

英会話ならびに英文法を、主に洋楽を用いた音楽的観点から学びます。文法は義務教育レベルの基本を主軸とし、限られた語彙・学習量での最大限のコミュニケーションスキルの獲得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

英語は難しい勉強であるという心理的なブロックを排し、母国語と同じような仕組みの上になり立っているコミュニケーションツールであるということ、および西洋音楽発展の歴史のうえで極めて密接な関係にあるということを理解する見地を育みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目概要：講師自己紹介ならびにコース説明
- ② 音楽史と西洋言語の関係性概論：教会音楽の樹立からポップミュージックの発展に至るまでの音楽の歴史と、西洋言語の密接な関係性
- ③ SVO 基本文型：英語の核となる SVO 基本文型（主語・動詞・目的語）とその応用性
- ④ 発音(1)：英語の基本概念となる音節についての説明、ならびに子音と母音の分離
- ⑤ 発音(2)：子音と母音の個別発音演習
- ⑥ 歌唱：詩や楽曲構造の解説の上、英語歌曲の演習
- ⑦ クォーター末試験：歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コミュニケーション演習(1)：グループで単語当て人狼ゲーム「ワードウルフ」を行い、コミュニケーション能力と言い換えスキルの獲得
- ⑨ コミュニケーション演習(2)：同上。回数を重ねることで徐々に英語のみでのゲームの成立を目指します
- ⑩ 英文法(1)：冠詞および過去形・過去分詞の違い
- ⑪ 英文法(2)：前置詞および句動詞
- ⑫ 総復習：夏期休暇明けのため、第1クォーターを含む学習内容の総復習
- ⑬ 期末試験準備(1)：少人数グループでの英語楽曲歌唱試験に向けての楽曲の開示ならびに解説
- ⑭ 期末試験準備(2)：同上。上記楽曲の実技演習
- ⑮ 学期末試験：グループでの英語楽曲歌唱試験

期末試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等进行评估します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	岩橋 宣輔
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はヨーロッパにて15年間の在住経験を持ち、株式会社テレビ朝日での映像翻訳の実務経験、ならびにキングレコード株式会社での英仏独文翻訳およびライナーノート執筆の実務経験を持ちます。

授業内容

英会話ならびに英文法を、主に洋楽を用いた音楽的観点から学びます。文法は義務教育レベルの基本を主軸とし、限られた語彙・学習量での最大限のコミュニケーションスキルの獲得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

英語は難しい勉強であるという心理的なブロックを排し、母国語と同じような仕組みの上になり立っているコミュニケーションツールであるということ、および西洋音楽発展の歴史のうえで極めて密接な関係にあるということを理解する見地を育みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目概要：講師自己紹介ならびにコース説明
- ② 音節(1)：英語の基本概念となる音節についての説明、ならびに子音と母音の分離
- ③ 音節(2)：音節の数え方および発音実習
- ④ SVO 基本文型：英語の核となる SVO 基本文型（主語・動詞・目的語）とその応用性。春学期に引き続き、最重要テーマのため復習します
- ⑤ コミュニケーション演習(3)：様々な文型の例文を用いて、生徒間での質疑応答ならびに会話演習を行います
- ⑥ 歌唱：詩や楽曲構造の解説の上、英語歌曲の演習
- ⑦ クォーター末試験：歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。
口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コミュニケーション演習(4)：様々な文型の例文を用いて、生徒間での質疑応答ならびに会話演習を行います
- ⑨ クリスマスキャロル歌唱：西洋において重要な音楽文化であるクリスマスキャロルについての説明と歌唱
- ⑩ 総復習：冬期休暇明けのため、第3クォーターを含む学習内容の総復習
- ⑪ コミュニケーション演習(5)：グループで単語当て人狼ゲーム「ワードウルフ」を行い、コミュニケーション能力と言い換えスキルの獲得
- ⑫ コミュニケーション演習(6)：同上。より大人数でのグループ分けによるディスカッション形式でのゲームの成立を目標とします
- ⑬ 期末試験準備(1)：少人数グループでの英語楽曲歌唱試験に向けての楽曲の開示ならびに解説
- ⑭ 期末試験準備(2)：同上。上記楽曲の実技演習
- ⑮ 学期末試験：グループでの英語楽曲歌唱試験

期末試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

秋学期は春学期から継続しての受講者と新規受講者が混在するため、カリキュラムが大幅に変更される可能性があります。

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	高梨 朋子・酒井 佳奈子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

このコースではいろいろなテーマを基に、自分が言ってみたい、聞いてみたいと思う体験を積んでいきます。チャンツのリズムを楽しみながら英語表現を身につけ、英語を聞く楽しさ、英語を話す楽しさを実感します。英語の曲も歌います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期の終わりには、自分の英語で伝えたいことを発表し、外国人と進んでコミュニケーションできるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Nice to meet you! 自分から挨拶してみよう
- ②I'm from Japan. 自分の出身地を紹介しよう
- ③What's her name? 友だちにインタビューしてみよう
- ④Where do you live? その人のことを一言で表してみよう
- ⑤She is interesting. その人の特徴を伝えよう
- ⑥This is my mother. 自分の大切な人やものを紹介しよう
- ⑦Presentation（発表） 今まで習った英語で自己紹介や自分アピールの発表を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%
 今求められる英語力とはコミュニケーションする力です。評価は普段の出席及び、間違いを恐れずに自分の思ったことを英語で表現しようとする態度を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Three pizzas, please. いくつ欲しいのかを伝えよう

- ⑨How much is this bag? 買い物をしてみよう
- ⑩Where are my keys? 家の中に何があるか教えよう
- ⑪Is there a bus to the airport? 行きたい場所をたずねてみよう
- ⑫What time does the library open? 時間を伝えよう
- ⑬I go shopping on weekends. 週末には何をするかを伝えよう
- ⑭Review 今学期の総復習をしよう
- ⑮Presentation (発表) 外国人レッスンの中で、週末の予定を紹介しよう

期末試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

コミュニケーションに必要なのは、難しい単語や文法よりも、何とか相手に伝えようとする気持ちや態度です。評価は普段の出席及び、学んだ英語を使って自分の思いを伝えたり、進んでコミュニケーションしようとする態度を重視します。

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	高梨 朋子・酒井 佳奈子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

このコースではいろいろなテーマを基に、自分が言ってみたい、聞いてみたいと思う体験を積んでいきます。チャンツのリズムを楽しみながら英語表現を身につけ、英語を聞く楽しさ、英語を話す楽しさを実感します。英語の曲も歌います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期の終わりには、自分の英語で伝えたいことを発表し、外国人と進んでコミュニケーションできるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Where do you work? どんな職業に就きたいかを伝えよう
- ②I do karaoke on Wednesdays. 普段していることを話してみよう
- ③I can play baseball. できることができるのかを伝えよう
- ④I like Italian food. 簡単に作り方を教えよう
- ⑤Can you call back later? 電話をしてみよう
- ⑥Would you like to go to the movies? 上手な返答の仕方を考えよう
- ⑦Presentation（発表） 今まで習った英語で自己紹介や自分をアピールする発表を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%
 今求められる英語力とはコミュニケーションする力です。評価は普段の出席及び、間違いを恐れずに自分の思ったことを英語で表現しようとする態度を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Please don't play loud music. ルールについて話してみよう
- ⑨I have a headache. 症状を伝えよう
- ⑩I'm going to go sightseeing. 休暇に何をするか話してみよう
- ⑪How was your vacation? 休暇の思い出を伝えよう
- ⑫How much do you spend each month? お金の使い方を話してみよう
- ⑬How do I get to the bank? わかりやすく道案内しよう
- ⑭Review 今学期の総復習をしよう
- ⑮Presentation (発表) 外国人レッスンの中で、休暇の思い出を紹介します

期末試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

コミュニケーションに必要なのは、難しい単語や文法よりも、何とか相手に伝えようとする気持ちや態度です。評価は普段の出席及び、学んだ英語を使って自分の思いを伝えたり、進んでコミュニケーションしようとする態度を重視します。

特記事項

学科名	アレンジ・作曲学科
科目名	インターンシップ I・II
担当講師名	
学期	春・秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

学科が認めた外部の催事やメディア出演等の学外活動、外部企業や音楽事務所等での研修を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各々の進路を踏まえた学外活動や、企業研修を体験することにより、実務的な経験と実績を得ることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

活動や研修に対しての積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢、実績等の評価します。

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

活動や研修に対しての積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢、実績等の評価します。

特記事項

学外活動や企業研修の機会を得る為には、それ相応の知識と技術に加え、コミュニケーション能力や各種マナーをはじめとする社会性も十分に備わっていることが必要になります。

す。